資料１

第２次　高松市創造都市推進ビジョン
（案）

平成　　年　月　日

高松市

目次

第 1 章 はじめに 1
1 目的 1
2 創造都市とはなにか 1
3 本市の上位計画・関連計画 2
4 ビジョンの期間 4
5 創造都市推進のイメージ 4

第 2 章 現況分析 6
1 地域の歴史・動向 6
コラム 男木島の５年間の変化 10
古くて新しいまち仏生山 10
2 都市の創造性・持続性から見る本市の現状 11

第 3 章 本市が目指す創造都市の将来像 13
1 目指す将来像 13
2 高松らしい創造都市 14
3 実現するための戦略 16
4 実現するための創造的アプローチ 17
5 主な成果一覧 19

第 4 章 取り組む事業（プロジェクト） 20
1 事業体系 20
こどもプロジェクト 21
工芸プロジェクト 26
食プロジェクト 31
交流プロジェクト 35
2 ビジョンの推進 46

資料編 48

第１章　はじめに

1　目的

本市では、平成 25 年 10 月に、本市の創造都市を推進するための総合的かつ基本的な指針として「高松市創造都市推進ビジョン（総論・各論）」を策定し、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際交流などに関する施策を一体的に推進しながら、高松の都市ブランドイメージの向上を積極的かつ効果的に図り、「瀬戸の都・高松」の魅力を全世界に発信してきました。

ビジョンの策定から５年が経過しようとする中、国では地方創生、一億総活躍社会の実現のための取組や東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定と、それに向けた文化プログラム（beyond2020 など）への取組が行われるなど、国際的な文化芸術の振興を通じた地方都市の活性化や、国民一人ひとりが自分の力を発揮し、生きがいの持てる社会の実現を目指すよう、大きく舵を切り始めております。

このビジョンに基づくこれまでの成果として、香川県が県外観光客を対象として実施している香川県への再来訪意向調査で「ぜひ来たい・来たいと思う・やや来たいと思う」の割合が 9 割を超えるとともに、本市が 18 歳以上の市民を対象として実施している市民満足度調査では「最も満足度が高かった施策」として「文化芸術の振興」が選ばれるなど、ブランド力のある都市を目指した本市のまちづくりについて、内外から高い評価をいただいくことができました。

このような成果を受けて、今回改訂を行う「第２次高松市創造都市推進ビジョン」では、前回のビジョンで定めた施策展開や基本的な方向性は継続しつつ、本市の取組の特色の一つである「こども」により着目するとともに、本市のブランド力をより高めるため、世界の中での高松の位置づけを強く意識し、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請も見据えるなど、新たな施策・事業を加えるとともに、その効果を検証する成果指標などを定めるものです。

2　創造都市とはなにか

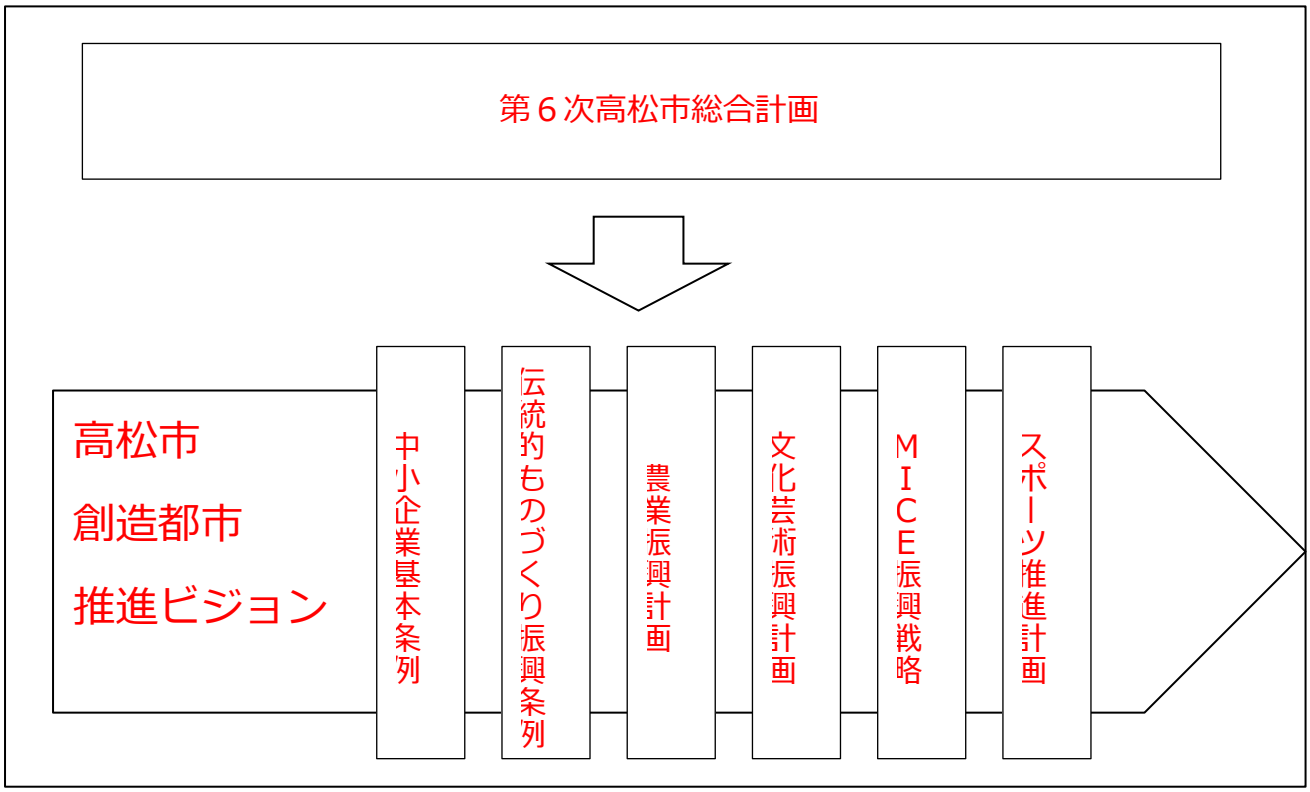
「創造都市」とは、それぞれの都市の個性や特徴をいかした上で、おおむね次のような条件を満たすものです。

- ●市民による、新たな活動が多数発生している都市
- ●文化と産業の創造性に富んでいる都市
- ●脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備えている都市
- ●世界的な環境問題や、局地的な地方特有の課題に対して、新しい方法で問題解決を行えるような「創造の場」に富んでいる都市

▽

市民一人一人が創造的に働き、暮らし、活動できる都市

3　本市の上位計画・関連計画



●産業経済政策

平成 24 年 12 月に策定した「高松市中小企業基本条例」に基づき、国、県、経済団体、大学、金融機関等との連携協力により、中小企業者の経営の革新及び経営基盤の強化の促進、創業の促進、人材の確保・育成への支援等、中小企業振興施策を実施しています。

また、平成 26 年３月に「高松市伝統的ものづくり振興条例」を制定し、高松ならではの伝統的ものづくりをさらに魅力あるものにし、発展させていくため、ブランド力の向上・販路開拓、普及啓発、人づくりの推進など、ものづくり振興施策を総合的に推進し、伝統文化の継承及び発展に寄与しています

さらに、国の農業政策の転換を始め、農業従事者のさらなる高齢化・減少による労働力不足や耕作放棄地の増加など、大きく変化している農業を取り巻く状況や、次世代の課題に対応するため、平成 28 年３月に新たな「高松市農業振興計画」を策定し、これからの農業の目標、基本方針等を明確にし、その実現に向けて取組を行っています。

●文化・観光・スポーツ政策

平成 25 年 12 月に制定した「高松市文化芸術振興条例」に基づき、27 年 3 月に「高松市文化芸術振興計画」を策定し、「市民を始め、文化芸術の担い手の自主性や創造性を十分に尊重する」、「誰もが、文化芸術に広く親しむことができる環境を整える」、「文化芸術の担い手が協働し、個性豊かで魅力に満ちた創造都市高松を創出する」、「伝統を継承するとともに、新たな文化芸術を享受・創造する」という 4 つの方針の下、「文化芸術を通して、市民が生き生きと心豊かに暮らせるまち、高松の実現」を目指しています。

また、本市のまちづくりに MICE を積極的に活用するため、「高松市 MICE 振興戦略」を平成 29 年 3 月に策定しました。地域への経済波及効果、交流人口や観光客の増加、ビジネス・イノベーションの機会の創造や、都市のブランドイメージの向上などを目的として、MICE の誘致・開催を積極的に取り組んでいます。

さらに、平成 28 年 3 月に策定した「高松市スポーツ推進計画」では、5 つの基本方針を定め、市民一人ひとりが生涯を通じたスポーツライフを創造するために、スポーツの多面的な役割を改めて明確にした上で、スポーツによるコミュニティの醸成や、高齢社会、障がい者に対応した既存スポーツ施設のバリアフリー化などスポーツを取り巻く環境を整備する中で、市民のニーズに即した効率的・効果的な施策を展開しています。

絵

4　ビジョンの期間

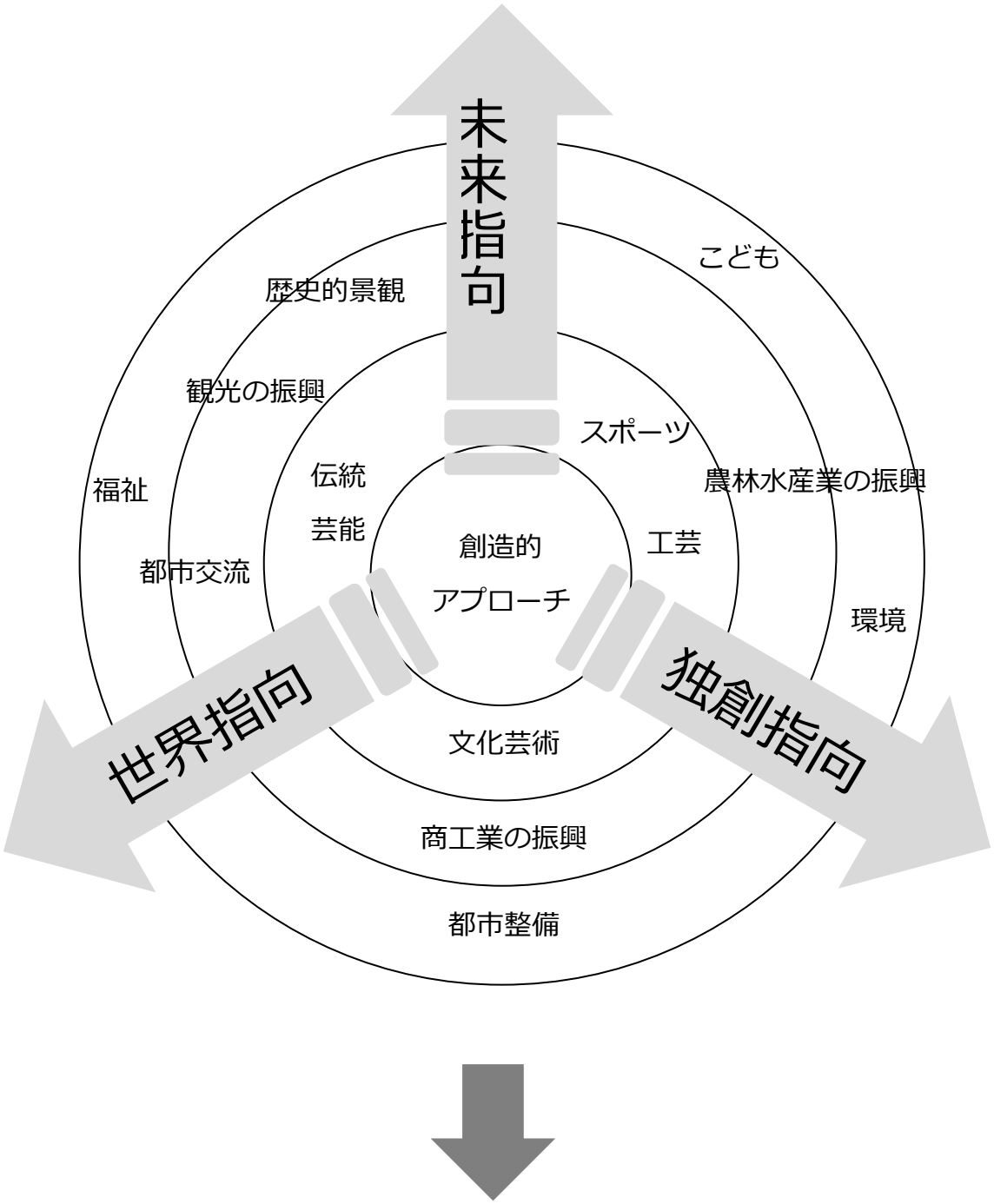
平成３０年度から３５年度までの６年間とします。

5　創造都市推進のイメージ

３つの戦略「独創指向：独創的な高松ブランドを編集する戦略」「世界指向：世界に向けてグローバルにひらく戦略」「未来指向: 未来に向けてゆるやかに連携し、段階的に取り組む戦略」を通じて、創造都市推進局を中心に、文化や産業などの政策・事業に取り組むとともに、こどもや福祉・環境・都市整備などについても、柔軟かつ横断的に全市を挙げて、「魅力にあふれ、活力のある創造都市」の実現に向けて取り組みます。

第６次高松市総合計画

『活力にあふれ　創造性豊かな　瀬戸の都・高松』



魅力にあふれ、活力のある創造都市

第２章　現況分析

1　地域の歴史・動向

写真

①日本三大水城のひとつである高松城を中心とした城下町と文化土壌の形成

天正 16 年　豊臣秀吉の家臣生駒親正（いこま ちかまさ）による高松城築城／生駒家
　｜　　による城下町の整備／高松松平家による城下町の拡大と産業振興

・北は瀬戸内海に面し、三重の堀に囲まれた水城、その南側に城下町の広がりを 見せる、海に開かれた都市の形成

・高松城の大手門門前に開かれた城下町には、丸亀町を始めとする商人町や職人町 などが形成される

・栗林公園や法然寺などの歴史遺産が造られたほか、茶道、華道、俳諧など文化 も発展し、産業奨励策により、漆芸、保多織、理平焼、桐下駄、円座、提灯、松盆栽、 張子、獅子頭などのものづくりが盛んになる

②明治から昭和初期の動向

明治 23 年　香川県の県庁所在地として、全国で 40 番目の市となる

明治 27 年　色を変えない松の緑に市の悠久繁栄を祈念して、市章を制定

明治 31 年　全国で 3 番目の工芸学校として「香川県工芸学校」を設立

・江戸時代末期に玉楮象谷（たまかじぞうこく）によって発展した香川漆芸の伝承

明治 43 年　宇野駅と高松駅を結ぶ宇高連絡船の就航

・四国の玄関として、国の出先機関や日本銀行の支店を始め、日本を代表する企業の支店が集積する地方都市として発展

大正時代　高松市出身の菊池寛が小説家として活躍
　｜　・『父帰る』『恩讐の彼方に』『真珠夫人』等の代表作を発表
昭和初期　・雑誌『文藝春秋』の創刊、芥川賞・直木賞の制定等、実業家としても活躍

昭和 3 年　本市主催による全国産業博覧会を開催

・出品総数約 15 万件、入場者数約 48 万 7 千人を集める

昭和 9 年　瀬戸内海が、雲仙や霧島とともに我が国で初めての国立公園の一つ（瀬戸内海国立公園）として指定される

・明治維新直後に瀬戸内海を訪れた地理学者リヒトホーフェンは「支那旅行日記」の 中で、「これ以上のものは世界のどこにもないであろう」と世界中に瀬戸内海を紹介

③戦後から昭和後期の動向

昭和 24 年　観光高松大博覧会開催

・2 か月の期間中に約 57 万人が訪れ、戦災からいち早く立ち直った

「国産館」は後に市立体育館として活用され、「科学館」は全国初の公立美術館（設計：山口文象）として栗林公園内に開館

昭和 25 年 ｜ 昭和 49 年　「デザイン知事」と呼ばれた金子正則県知事が、庁内にデザイン室を設置

・地域振興や文化振興などにおけるデザイン戦略を研究し、丹下健三を始めとする著名な建築家に建築設計を依頼

昭和 28 年　第 8 回国民体育大会（四国国体）

昭和 30 年　音丸耕堂（高松市出身）が彫漆の分野で、人間国宝に認定される

昭和 31 年　イサム・ノグチが初めて牟礼町を訪れる

・庵治石とその産地の風土を気に入り、制作に励む

牟礼町のアトリエはその後、「イサム・ノグチ庭園美術館」（平成 11 年開館）として公開

磯井如真（高松市出身）が蒟醤の分野で、人間国宝に認定される

昭和 36 年　高松市民会館落成

アメリカのセント・ピータースバーグと姉妹都市提携

昭和 38 年　「讃岐民具連（さぬきみんぐれん）」の設立・活動

・民衆が日常の生活用具として使い続けてきた様々な民具を、より洗練された新しい造形として再生しようという運動

・猪熊弦一郎やイサム・ノグチ、流政之、ジョージ・ナカシマなど世界的なアーティ ストが高松に集まる

昭和 41 年　滋賀県彦根市と姉妹城都市提携

昭和 48 年　鎌倉芳太郎（香川県出身）が型絵染の分野で、人間国宝に認定される

昭和 49 年　茨城県水戸市と親善都市提携

昭和 51 年　「香川漆器」国の伝統的工芸品の指定を受ける

昭和 53 年 ｜ 昭和 55 年　大平正芳（香川県出身）が内閣総理大臣に就任する

・「田園都市構想」の中で、多様性のある地域主導の国家建設と、文化の時代の到 来を唱える

昭和 58 年　市の木を「黒松」に、市の花を「つつじ」に制定

昭和 60 年　磯井正美（高松市出身）が蒟醤の分野で、人間国宝に認定される

昭和 61 年　高松市総合体育館落成

④最近の動向

昭和 63 年　瀬戸大橋開通

・一方で宇高連絡船が廃止されるなど、瀬戸内海とつながった港町らしさが消失しているという声もある

高松市美術館が移転新装オープン（紺屋町）

フランスのトゥール市と姉妹都市提携

平成元年　新高松空港開港

平成 2 年　中国の南昌市と友好都市提携

平成 4 年　高松～ソウル便の就航

サンクリスタル高松（高松市図書館、菊池寛記念館、歴史資料館）が開館

平成 5 年　第 48 回国民体育大会開催

平成 6 年　太田儔（岡山県出身、高松市在住）が蒟醤の分野で、人間国宝に認定される

平成 11 年　高松市が中核市へ移行

平成 12 年　瀬戸内海に面する北浜町の古い倉庫群をリノベーションした複合商業施設「北浜アリー」オープン

・週末には多くの若者が集い、港の雰囲気が味わえる場所

平成 15 年　高松自動車道の全面開通（徳島県鳴門市～愛媛県四国中央市）

平成 16 年　サンポートホール高松グランドオープン

平成 17,18 年　高松市と塩江町、牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町が合併

平成 17 年｜　源平史跡のライトアップと石あかり（石でできた照明器具）を設置した「むれ源平石あかりロード」を開催・継続

平成 18 年｜　「高松丸亀町壱番街」がオープン（その後、平成 22 年に「高松丸亀町弐番街」及び「高松丸亀町参番街」、24 年には「丸亀町グリーン」が順次オープン）

・「人が住み、人が集うまち」を目指して中心市街地の再開発に取り組み、通行量は回復傾向にある

「さぬき映画祭」の開催

・香川県を舞台とした映像企画の発掘

「第 1 回高松国際ピアノコンクール」の開催

・若いピアニストの発掘・育成が目的

平成 21 年　イタリアのレッジョ・エミリア市で取り組まれている幼児教育を応用した、
アーティストが保育所を訪問・滞在する「保育所への芸術士派遣事業」の実施

平成 22 年　「瀬戸内国際芸術祭２０１０」の開催

・瀬戸内海の島々の伝統文化や美しい自然を生かした現代美術を通して、瀬戸内海の 魅力を世界に向けて発信

・女木島、男木島、大島、直島（直島町）など 7 島と高松港周辺の会場に約 94 万人が来場し、約 111 億円の経済波及効果

「第２回高松国際ピアノコンクール」の開催

「第１回サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」の開催

（以降毎年開催）

平成 23 年　国内では初めてとなる「アジア太平洋盆栽水石高松大会」の開催

・国内だけでなくアメリカ、イギリス、中国などから、4 日間で延べ約 7 万 6 千人が来場

高松～上海便の就航

平成 24 年　海と島と街を巡るクラフトフェア「瀬戸内生活工芸祭」の開催

・玉藻公園と女木島を会場に、2 日間で 1 万人以上が来場

「100 年サーカス（瀬戸内サーカスファクトリー）」の開催

平成 25 年　高松～台北便の就航

・ソウル、上海も含めたアジア主要都市との交流が一段と進展することが期待されている

「瀬戸内国際芸術祭２０１３」の開催

・新たに 5 つの島が加わる（沙弥島（坂出市）、本島（丸亀市）、高見島（多度津町）、粟島（三豊市）、伊吹島（観音寺市））

山下義人（高松市出身）が蒟醤の分野で、人間国宝に認定される

平成 26 年　「第 3 回高松国際ピアノコンクール」の開催

「第 4 回日仏自治体交流会議」の開催

平成 27 年　コトデン瓦町ビルに瓦町 FLAG が開業

平成 28 年　G7 香川・高松情報通信大臣会合

「瀬戸内国際芸術祭２０１６」の開催

高松～香港便が就航

複合施設「たかまつミライエ」落成

平成 29 年　「屋島レクザムフィールド」がリニューアルオープン

有料道路であった屋島ドライブウェイが無料化

～コラム 1～　男木島の５年間の変化

男木島は、高松港から北に約 10ｋｍの距離に位置する面積 1.38ｋｍ^2、周囲 5.0ｋｍ、人口が約 180 人の島です。平坦地が少なく南西部の斜面に階段状に集落が作られています。

男木島の教育機関である男木小・中学校は、明治 17 年の開校以来、平成 29 年に 133 年目を迎えた伝統校で、ピーク時には小中あわせて 257 名の児童生徒が在籍していました。その後、少子化や過疎化などにより、小学校は平成 20 年度から、中学校は 23 年度から休校となっていた中、「瀬戸内国際芸術祭」の開催が契機となり、島への移住者が増加を始め、26 年４月に男木小学校・男木中学校が再開し、28 年５月には男木保育所が再開しました。

このような、芸術の力がもたらした男木島での「再生の物語」は、「市民の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決に取り組む」という創造都市の理念を体現したものであるとして、本市の創造都市推進における重要なモデルの一つとして位置付けていきます。

写真

写真

～コラム 2～　古くて新しいまち仏生山

仏生山エリアは本市中部に位置し、1688 年（寛文８年）に初代高松藩主である松平頼重が、生福寺を法然寺と改名し、高松松平家の菩提寺としました。このことが仏生山町の名前の由来となるとともに、仏生山は門前町として栄えるようになりました。

「お成り街道」とも呼ばれる本町通りを中心に、江戸から昭和の面影を残す町屋や寺院が残り、現在では、仏生山歴史街道景観形成重点地区として、町屋の外観をいかした店舗利用など、歴史的な地域資源の活用が進められています。

写真

写真

2　都市の創造性・持続性から見る本市の現状

区分		現状
①創造的人材	芸術家や科学者・技術者・職人など、固定観念にとらわれない新たな方法で課題解決に取り組むことができる人材と活動状態	瀬戸内国際芸術祭やそのボランティアサポーター「こえび隊」への参加、保育所などへの芸術士派遣事業等を機に、本市周辺に UIJ ターンする芸術家等は増加傾向にあると言われています。
②生活の質	個人所得と自由時間の豊かさ、文化・娯楽、都市環境とアメニティの豊かさ	文化芸術に係る資源やイベントは多数あります。また、本市の、1 世帯当たり 1 か月間の教育娯楽への消費支出割合は約 9.6%となり、四国平均の約 8.6%を上回っています（総務省統計局「家計調査」、平成 28 年）。
③創造産業	映像・音楽・メディアアート・工芸・デザインなどの創造的文化産業の企業と従事者	創造的職種（ソフトウェア業・デザイン業・土木建築サービス業・写真業・専門料理店・教養・技能教授業）の従業者数は全国の地方圏平均より依然高く、ソフトウェア業・デザイン業・専門料理店の従業者数の割合は近年上昇しています（総務省「創造的人材の定住・交流に向けた事例報告書」、平成 24 年及び「平成２６年経済センサス－基礎調査」より調査）。
④創造支援・インフラストラクチュア	大学・専門学校・研究所及び劇場・図書館・美術館などの創造支援施設と活動状態	高松市美術館が平成 28 年 3 月にリニューアルオープンし、11 月には複合施設である「たかまつミライエ」がオープンしました。香川大学では、新たに「デザイン思考」や「リスクマネジメント」の能力育成を取り入れた「創造工学部」が 30 年度から新設されます。
⑤文化遺産と文化資本	公共部門に登録されている有形無形の文化財と保存活用状態	屋島や高松松平家の歴史文化を中心に指定文化財は 162、登録文化財は 106 と多く、近年ではユニークベニューとして、重要文化財指定の披雲閣が会議や晴れの日で活用されており、また、現地学習会である「ふるさと探訪」の実施や屋島ドライブウェイの無料化など、文化財の活用に取り組んでいます。

⑥市民の活動力	ＮＰＯの活動状態、行政分野への女性の参画	市民活動団体の活動は活発であり、平成 18 年度からは市民活動団体等と本市が協働のパートナーとして社会的・公益的な課題に取り組む「高松市協働企画提案事業」も実施されています。本市の審議会等においては、約 4 割の女性委員が就任しています。
⑦創造的ガバナンス	都市行政への能動的な市民参加とパートナーシップ、政策立案能力、財政自立、文化予算	平成 24 年から高松市創造都市推進懇談会（通称：Ｕ－40）を設置し、本市が創造性をいかしたまちづくりを推進するに当たり、各方面で活躍している若い世代の意見を聴取しています。

第３章　本市が目指す創造都市の将来像

1　目指す将来像

「魅力にあふれ、活力のある創造都市」の実現に取り組む上で、本市が目指す将来像として、次のとおり掲げます。

自然や歴史、生活と結びついた「芸術指数」が高いまち	交流で新たな発見がある「クリエイティブな暮らし」にあふれたまち	豊かな生活が実現できるコンパクトなまち
盆栽や漆器などの伝統工芸や、庵治石や家具など自然を活用した工芸が生まれた高松では、讃岐民具連の活躍によって、職人の意識や地位が高まりました。 また、高松産の食材を使った地元ならではの料理、フルートや声楽などの音楽など、様々な芸術を育む土壌があります。	瀬戸内海に開かれた高松は、島々と都市、本土と四国を結ぶ要所として栄え、数多くの来訪者を受け入れてきました。 平成 22 年から始まった瀬戸内国際芸術祭は、国内外から多くの観光客が訪れ、数多くのアーティストと住民の交流が生まれました。また、これまで忘れられていた海や島の価値の再発見にもつながりました。	人口減少、少子超高齢社会の到来により大きな経済成長が望めない中で、市民が真の豊かさを実感できるまちづくりが求められています。 高松の魅力のひとつは、都市的利便性と潤いのある海や田園の穏やかさが共に享受できるところです。
自然や歴史、生活と芸術が結びついてきた高松の特長を生かして、常に新しい何かが生まれる「芸術指数」が高いまちを目指します。	住民と来訪者が一緒になり、地域資源の再発見と活用を通じて、その土地ならではの「クリエイティブな暮らし」がたくさんあるまちを目指します。	都市と海園・田園が広がり、また歴史や文化に恵まれた高松では、多様な暮らしが実現できます。各人が豊かな生活を実現できるコンパクトなまちを目指します。

↓　↓　↓

魅力にあふれ、活力のある創造都市

2 高松らしい創造都市

本市が目指す創造都市像のイメージイラスト

本市が目指す創造都市像のイメージイラスト

3　実現するための戦略

①独創指向「独創的な高松ブランドを編集する戦略」

３つのローカル（マテリアル／素材、テクニック／技術、デザイン／しつらえ）を再発見し、高松ブランドの創出と発信を行います。

ローカル・マテリアル（素材）	ローカル・テクニック（技術）	ローカル・デザイン（しつらえ）
●高松松平家（玉藻公園・栗林公園・法然寺） ●うどん、オリーブ、果物・野菜（高松ごじまん品） ●まつり、瀬戸内国際芸術祭（現代アート） ●イサム・ノグチ庭園美術館、温泉、丸亀町商店街 ●高松市美術館、たかまつミライエ	●伝統工芸（盆栽、庵治石、漆器、菓子木型、かがり手まり等） ●生産者と消費者を結ぶ目利き力 ●デザイン力 ●芸術士	●赤灯台「せとしるべ」と瀬戸内海の島々 ●屋島からの風光明媚な眺望 ●ＭＩＣＥ施設が集うシーフロントウォーターフロント ●北浜アリーなどレトロな倉庫群 ●海から見た美しい山並み

②世界指向「世界に向けてグローバルに開く戦略」

都市経済の好循環を生み出すためには、今後も成長が見込まれるアジア新興国を中心とした海外市場の獲得が重要であるため、世界の中での高松をより一層強く打ち出していく必要があります。

工芸品や農林水産物の販路を国内外に積極的に開拓していくとともに、市内で開催される小規模イベントや会議・展示会等を国際級に育て上げるだけでなく、MICE を積極的に誘致・開催することで、外国人観光客の増加を実現します。また、海園及び田園の恵まれた自然や、市街地の現代的な都市空間をさらに磨き上げるとともに、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請にも取り組むことで、市民が世界に対して誇りを持てる都市へと育んでいきます。

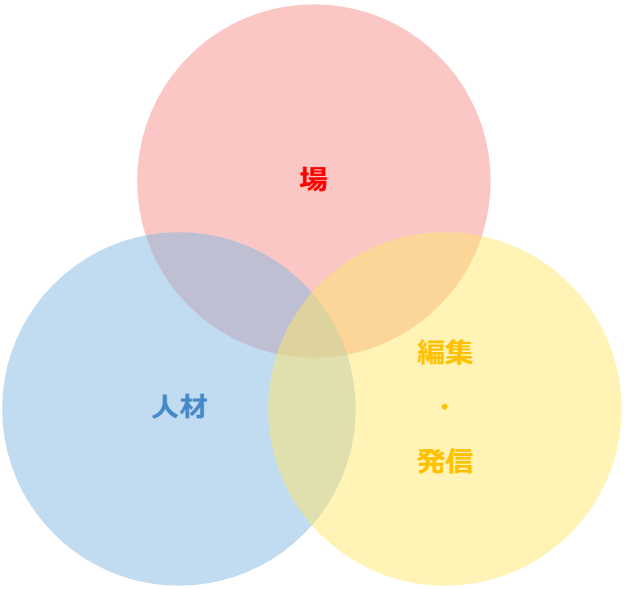
③未来指向「未来に向けてゆるやかに連携し、段階的に取り組む戦略」

創造都市の実現のためには、従来の縦割りではなく、同業種・異業種がゆるやかな横連携でつながり、直面する課題に対して協働で取り組むことが求められます。また、創造的な解決手法は一朝一夕に達成できるものではなく、試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ前に進めていくことが大切です。

創造力と実践力のある人材がゆるやかに連携し、本市の取組の特色の一つである「こども」にも着目しながら、段階的に取り組むことで、高松らしい創造都市を実現します。

4　実現するための創造的アプローチ

本市が創造都市を実現するためには、「創造的アプローチ」により施策・事業に取り組むことが求められます。創造的アプローチとは、創造的人材の集積と成長を通じて、従来とは異なる解決手法により、創造都市としての新しい価値観を創出する方法であり、具体的には「場の創出」「創造的人材の集積」「編集・発信」から成り立ちます。



①場の創出

人を引きつける歴史的建造物や古い町並み、自然豊かな海園・田園を生かした空間づくりとともに、創造的人材が集まり、情報の共有できる拠点づくりを行います。また、行政と市民の対話の場づくりを創出・継続します。

創造的人材と市民が連携することで、新しい動きが生まれる仕組みをつくるとともに、四番丁スクエアなどを創造都市の拠点とし、創造的人材が集い、創造的人材を育成する場所づくりに努めます。

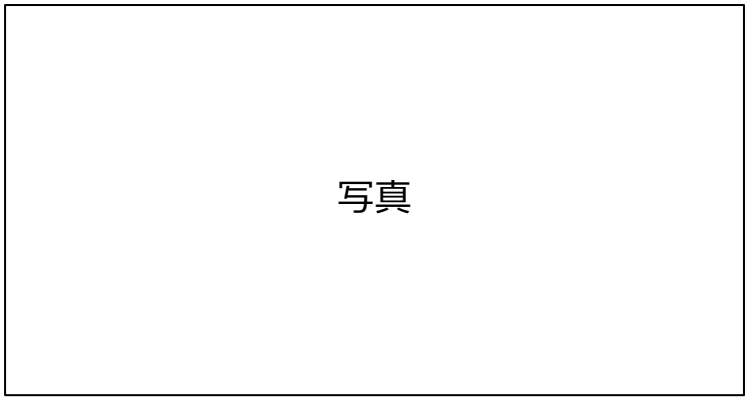
写真

写真

②創造的人材の集積

国内外の創造的人材の誘致を図るとともに、教育を通じた創造的人材の育成や、そのような教育が実現できる環境づくりに取り組みます。

高松に集い、暮らす創造的人材がこれからも高松で活躍するために、彼らの活動や作 品作りがビジネスにつながるような支援を行うなど、創造産業としての振興を図ります。



③　編集・発信

高松ならではの資源を活用した戦略的な国際交流や情報発信を通じて、高松ブランドの知名度向上に努めます。特に、市内で活躍する創造的人材に係る情報の県外・国外発信に努めます。

国内外の創造都市との連携により、互いの都市がともに成長していく相乗効果を生み出します。

5　主な成果一覧

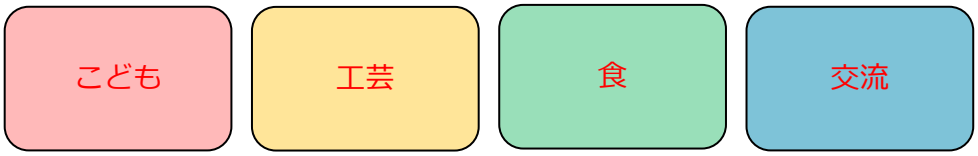
本市が目指す創造都市の将来像の実現に向け、各種の取組（第４章参照）を推進していく上で、下記のとおりの成果指標を設定し、進行管理を行いながら現況値よりも向上を目指します。

観点	成果指標	現況値
イベント面	瀬戸内国際芸術祭市内来場者数（高松市内） （外国人割合）※アンケート調査	【２０１６】 約 231,000 人 （13.4%）
	サンポートトライアスロン観客数	【H28 年度】 14,800 人
	国際ピアノコンクール観客数	【H26 年度】 7,180 人
認知度	創造都市推進局 Facebook ページ　いいね！数	【H28 年度】 約 4,100 人
愛着度など	市民満足度調査において、高松市に愛着を「感じる」「やや感じる」と回答した割合	【H28 年度】81.8%
	市民満足度調査において、今の高松市が「住みよい」「まあまあ住みよい」と回答した割合	【　〃　】85.8%
	市民満足度調査において、高松市に「ずっと住み続けたい」「住み続けてもよい」と回答した割合	【　〃　】85.8%
	市民満足度調査において、高松市の市政に関心が「ある」「ややある」と回答した割合	【　〃　】66.6%
こども	こども未来館来館者数	【H28 年度】 約 54,000 人
観光資源力	栗林公園来場者数	【H28 年度】 約 710,000 人
	屋島来場者数	【H28 年度】 約 466,000 人
	玉藻公園来場者数 （外国人割合）	【H28 年度】 約 238,000 人 （約 8.4%）
	鬼ケ島来場者数	【H28 年度】 約 148,000 人
	塩江温泉郷来場者数	【H28 年度】 約 70,000 人

第４章　取り組む事業（プロジェクト）

1　事業体系

高松ならではの創造都市の実現に向けて、創造的な取組の芽吹きを大切にし、固定観念にとらわれない新たな方法（創造的アプローチ）によって、次の４つの「プロジェクト」を実施していきます。

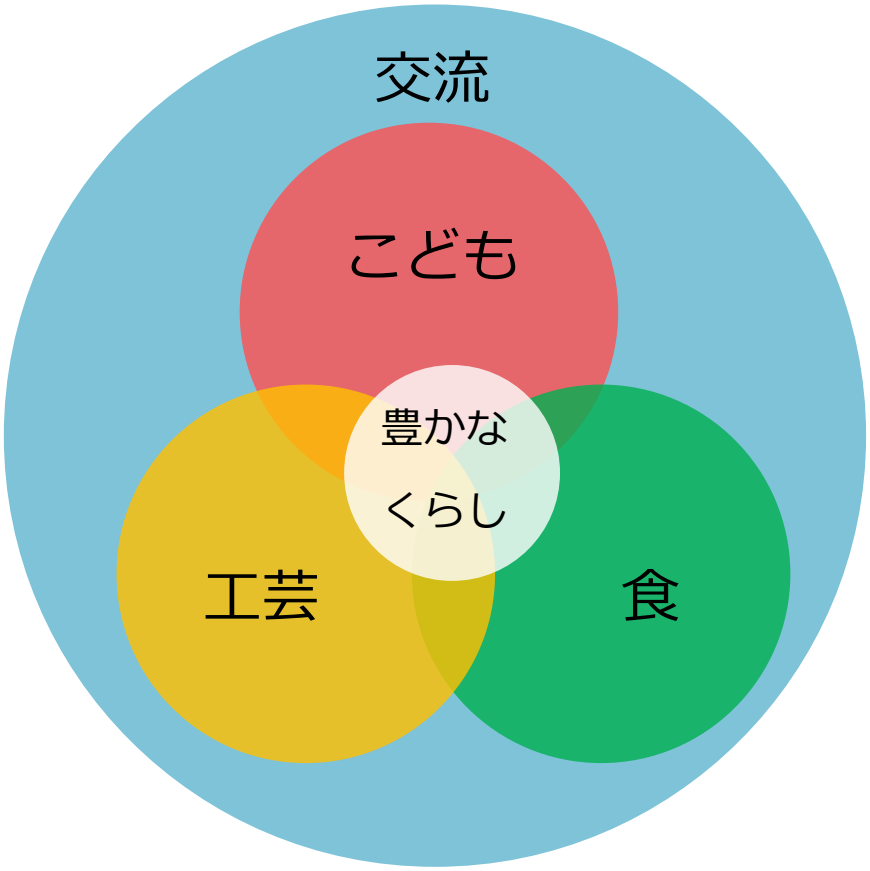


こどもプロジェクト　恵まれた地域資源の中で創造力を育む

工芸プロジェクト　伝統・芸術・デザインの力で新しい未来を拓く

食プロジェクト　豊富な食文化と異文化との融合

交流プロジェクト　地域を通して世界につながる交流へ



豊かな
くらし

これら４つのプロジェクトに取り組むことで、あなたの豊かなくらしを導きます。

こども

こどもプロジェクト　恵まれた地域資源の中で創造力を育む

①　現状と課題

近年、人口減少、少子・超高齢化が進展するとともに、地域社会とのつながりの希薄化や家庭の養育力の低下等、子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境は、大きく変化しています。また、家庭で子どもと過ごす時間の減少や、子育てについて不安や孤立感を感じる保護者の増加等、家庭の養育力に関する問題も多様化しています。

そのような中、平成２５年度に実施した、本市の就学前児童及び小学生の保護者を対象とした高松市子ども・子育て支援に関するアンケート調査では、半数近くが「高松市は子育てしやすいまちだと思う」という回答となっている反面、行政への要望として「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」との回答が最も多くなっています。

本市では、平成２８年１１月に、プレイルームを持つ子育て支援ゾーンや自然科学展示、プラネタリウムも兼ね備えた「こども未来館」を中心に、児童書を充実させた「夢みらい図書館」等を併設した「たかまつミライエ」を開館しました。また「子育てするなら高松市」を掲げ、子ども・子育て支援新制度に基づく事業等に取り組んでおり、平成２７年度に「にっぽん子育て応援団」が実施した、第４回主要自治体の子育て分野における NPO／市民活動団体との連携に関する調査では、１０８自治体中、第２位の高い評価を得ています。

また、イタリアのレッジョ・エミリア市の取組を参考に全国に先駆け、保育所・幼稚園に芸術士を派遣する先進的な取組を平成２１年度から実施しています。芸術士とは、子どもたちに芸術に触れる機会を提供するアーティストの総称であり、子どもたちと造形・絵画・音楽等、様々な表現活動を行うことによって、子どもたちの感性や創造力を育むことを目的としています。このような高松ならではの「こども」に係る取組を推進していくことは、高松ブランドの創出・発信につながります。

②　プロジェクトの目的

アートに出会える恵まれた環境や、自然と街が美しく調和した本市において、創造性を育む場の提供や事業を実施し、これからの高松の未来を担う子どもたちを、多様性・寛容性をもって育むことで、創造性を発揮できる子どもに育てていきます。

③ 取組方針

項目	詳細
子どもの創造力を育てる取組の推進 創造性を育む場の提供や事業の実施	●子どもの発達段階に応じた多様な興味関心に応えることのできる環境整備の拡充（自然科学、工芸、音楽、演劇、映画、スポーツ、食育、芸術士の確保・育成） （芸術士派遣事業、０才からのコンサート、ものづくりふれあい教室事業、学校巡回芸術教室・能楽教室事業、劇団四季ミュージカル「こころの劇場」等） ●企業に子どもたちを呼んで職業体験してもらう「リアルキッザニア」の実施 ●高松の文化・伝統・歴史・気候・地形等をより深く学び、世代間や都市間の交流を深めていく仕組みづくり（屋島子ども愛着心醸成事業、こども未来館等での体験学習、小・中学校の校外活動と連携した、地域資源を体験できる取組の強化等）
文化としてのスポーツの魅力活用 創造性を育む場の提供や事業の実施	●スポーツを通じてあいさつ等の礼儀作法を学んだり、あきらめない心や、自己肯定につながる「達成感」を感じることで、子どもの可能性を引き出す取組の実施 ●地域に複数のプロスポーツチームを有する強みを生かした、子どもたちの向上心を育むための、トップアスリートとの交流促進（地域密着型トップスポーツチームの活用等）
子どもの遊び環境の充実や子育ての支援をする施設の管理運営 創造性を育む場の提供や事業の実施	●子どもの個性を尊重し、よりよく伸ばしていく「寛容性」を、保護者やまわりの大人・地域・社会が持ちながら見守る創造的な教育環境作りの推進（こどもアートスペース、夏休み親子探検隊チラシ制作事業等） ●自然科学等の技術・テクノロジーを体験できるプログラムの提供 ●「こども未来館と夢みらい図書館」の充実 （こども未来館わくわく体験事業、子ども・子育て支援事業、こども未来館学習体験事業、夢みらい図書館等）

④ 主な取組事業

芸術士派遣事業	
事業概要	実施実績
芸術士が本市内の公私立の保育所・公立幼稚園・こども園を分担し、日々の保育・教育の中で保育士等と連携しながら、子どもたちと造形活動や身体表現等、様々な表現活動をしています。 芸術士は、子どもたちの無限の可能性を信じ、子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出す手助けをし、子どもたちと社会をつなぐ繋ぐ架け橋として子どもたちの創造力の育成に努めています。	【派遣個所数】 平成 25 年度　27 か所 平成 26 年度　35 か所 平成 27 年度　40 か所 平成 28 年度　40 か所

０才からのコンサート	
事業概要	実施実績
０歳から３歳くらいまでの子どもとその保護者（妊婦を含む）を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施します。	【観客数／回数】 平成 25 年度　実績なし 平成 26 年度　４６３人 平成 27 年度　６０２人 平成 28 年度　５５９人

ものづくりふれあい教室事業	
事業概要	実施実績
小・中学生を対象に、ものづくりにチャレンジしながら、文化の創造に関心を深め、いかにものづくりが大切かを体験する機会を提供します。 今後は、工芸の視点も取り入れ、子どもたちに日本の伝統文化の魅力も伝えていきます。	平成 25 年度参加数　８２９人 平成 26 年度参加数　８６１人 平成 27 年度参加数　１，２２３人 平成 28 年度参加数　１，０２５人

学校巡回芸術教室・能楽教室事業	
事業概要	実施実績
小・中学生の情操教育の一助とし、健全育成に資するため、学校巡回形式で、生の優良な芸術や古典芸能を鑑賞し、体験する機会を提供します。 能楽、歌舞伎等の伝統芸能を身近に鑑賞、体験できる機会の提供（ホール公演、薪能等）についても検討していきます。	学校巡回芸術教室【参加者数】 平成 25 年度　８，３６０人 平成 26 年度　７，０９７人 平成 27 年度　１２，２８３人 平成 28 年度　　９，８７６人 能楽教室事業【参加数】 平成 25 年度　２，１７２人 平成 26 年度　２，９６５人 平成 27 年度　１，５５５人 平成 28 年度　３，６１７人

地域密着型トップスポーツチームの活用	
事業概要	実施実績
カマタマーレ讃岐等、４つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や試合への無料招待等、子どもたちに直接選手等に触れ合う機会を提供することで、子どもたちの向上心や創造力の育成を図ります。 新たに平成 28 年度から市民ふれあいイベントを実施し、一層選手との交流を深めることを目的に開催しており、今後も、香川県やトップスポーツチームと連携を図りながら、様々な機会を通じ、より多くの子どもたちにトップスポーツチームの選手等と触れ合える機会を提供していきます。	【教室開催回数】 平成 25 年度教室等　２回 その他　　１３回 平成 26 年度教室等　　２回 その他　　９回 平成 27 年度教室等　　７回 その他　　３回 平成 28 年度教室等　　４回 その他　　３回

こどもアートスペース（高松市美術館内）	
事業概要	実施実績
平成２８年３月リニューアルに合わせて、高松市美術館内に「こどもアートスペース」開設し、“ふらっとアート”では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、未就学児をはじめ様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを展開します。	【子ども対象イベント・講座参加数】 平成 27 年度　537 人 平成 28 年度　1,230 人

こども未来館わくわく体験事業（平成２９年度～）	
事業概要	実施実績
子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供することにより、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するため、遊びや科学、アートなどの体験活動を提供するイベントプログラムや親子で参加できる体験イベントなどの様々な魅力ある事業の提供に努めています。	【開館記念事業としての実績:企画事業入館者数】 平成２８年度　６,６９４人

子ども・子育て支援事業	
事業概要	実施実績
みんなのひろばとプレイルームを子どもと保護者の居場所として提供するとともに、子ども・子育ての相談に対応し、子どもと親がともに育ち合う子育て支援機能とふれあい・交流による多世代交流機能を果たすことを目的として実施します。	【みんなのひろば･プレイルーム利用者数】 平成２８年度　３５,０８２人

こども未来館学習体験事業	
事業概要	実施実績
市内の小学校４年生（ただし、学校の状況により５年生以上、学校の希望により、中学校の生徒を対象に実施できる。加えて、連携中枢都市圏の小・中学校も受入れ可能。）を対象として、こども未来館の施設を利用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力と探究心を育むことで、健やかな成長に資することを目的に実施します。	【こども未来館学習実施学校数／延べ人数】 平成２８年度　２１校／１,７３７人

夢みらい図書館	
事業概要	実施実績
子ども向けの本を充実させるとともに、おはなし会や読み聞かせ、多様なイベント等を開催するなど、子どもに重点を置いた、子どもも大人も楽しく本に親しむことができる場を提供しています。	【子ども対象イベント参加者数】 平成２８年度　４９６人

工芸

工芸プロジェクト　伝統・芸術・デザインの力で新しい未来を拓く

①　現状と課題

本市では江戸時代から高松松平家の産業奨励策により、茶道、華道、俳諧等が生まれ、工芸も盛んになりました。その中でも、香川漆芸は江戸時代末期に高松に生まれた玉楮象谷が独特の漆芸技法を確立し、５人の人間国宝を輩出した高い技術を誇っており、昭和２９年には香川県漆芸研究所が設立されました。また、明治期において全国三番目となる香川県立高松工芸高等学校の設立や、丹下健三を始めとした建築家達の活動、戦後の讃岐民具連の取組等によるイサム・ノグチ、ジョージナカジマ等の芸術家達の出会いなど、デザインや伝統工芸に対する文化土壌が歴史的に育まれてきました。

しかしながら、全国的にも伝統工芸の認知度向上や、販路開拓、担い手不足が課題となっているため、本市では、平成２６年に「高松市伝統的ものづくり振興条例」を制定し、特色ある伝統文化に光を当て、伝統的工芸品を始めとした伝統的ものづくりの振興を行っています。

このうち、香川漆器については、イタリア高級靴ブランド等とのコラボレーションにより、香川漆芸の技法を用いた装飾を施した靴を制作し、制作過程等の情報発信や販売を実施するなど、ブランド力の向上を目指しています。

また、松盆栽の生産量は、全国シェアの約８０％を占めており、平成２３年に国内初となる「ASPAC アジア太平洋盆栽水石大会」を、そして２６年には「高松盆栽大会」を開催するとともに、「瀬戸内国際芸術祭 2016」では、女木島において地元デザイナーとのコラボで盆栽展示が行われるなど、芸術としての盆栽を世界に発信し、盆栽の郷高松の認知度を国内外で向上させる取組をしています。

このように、本市の伝統工芸を世界に発信する一方で、近年ではものづくりの素材や技術を日常生活に取り戻す取組も進められており、本市においても、高松ならではの伝統工芸や、市内の作家が制作する作品を展示・販売するライフスタイルショップが数カ所に開設されています。

② プロジェクトの目的

自然や歴史・文化と結びついた伝統工芸や民藝の価値を再認識するとともに、その他工芸、食を含めた異文化・芸術、デザインとの融合により、高松ならではの工芸として、新たなものづくりにも価値を見出しながら、高松の魅力のひとつとして国内外に向けて発信し、販路開拓を行いながら、産業の活性化を図り、更に次世代を担う人材の育成に取り組みます。

③ 取組方針

項目	詳細
現代生活・様式に溶け込む新商品・サービスの開発	●歴史文化に根付く工芸及び技法・素材の現代生活への応用・転換や新活用の展開 （AJI PROJECT、むれ源平石あかりロード、庵治石ガラス、建築素材での活用、香川県立工芸高等学校 Creative 7 の活動等） ●従来技法を応用した低価格帯商品・サービスの開発 （ストラップ、アクセサリー等）
効果的な情報発信	●工芸の認知度向上やブランド化に向けたプロモーションの実施 （盆人プロジェクト、漆芸研究所修了作品貸出事業、工芸の制作映像等でのプロモーション、雑誌等での PR）
工芸品の海外販路開拓支援	●海外の富裕層等を対象とした“ほんもの”の工芸品の販路開拓推進 （高松盆栽振興事業、高松盆栽の郷推進事業、ZOKOKU BRAND 推進事業、展示会・商談会の出展支援）
工芸を身近に感じるための裾野の拡大	●作り手の現場を体験できる“ほんもの”志向のツーリズムの推進 ●親子等で学ぶ体験の実施 （伝統的ものづくり親子体験教室、伝統的ものづくり学校巡回教室普及啓発事業、調理から器の選び方までを体験できる料理教室の開催） ●観光客を対象とした生活工芸の紹介 ●異なる分野（食や音楽等）を入口とした魅力の紹介 （高松城跡、栗林公園等でのワークショップ、工芸を食器にした食の提供、Ｃａｆｅ等）
後継者・人材の育成 担う人材の育成	●素材の発掘から製品づくりまで全てを支援・管理できる人材の誘致・連携 ●販路開拓に向けた人材育成

④　主な取組事業

ＡＪＩ　ＰＲＯＪＥＣＴ	
事業概要	実施実績
地元の石材事業者の加工技術を活用して、暮らしに寄り添う庵治石商品の開発・販路開拓に取り組みます。 石材産地である強みを生かし、地域資源である「庵治石」を素材として、消費者の日常生活に「付加価値」を与える新商品の開発に取り組み、石材産地としてのブランドの再構築を行うことで、地場産業の振興を図ります。 主催：高松市牟礼庵治商工会	【販売実績】 平成 25 年度　2,050 千円 平成 26 年度　4,080 千円 平成 27 年度　7,400 千円 平成 28 年度　9,700 千円（見込み）

むれ源平石あかりロード	
事業概要	実施実績
地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として始めた事業で、市としては、源平屋島地域活性化事業を通して、後援しています。 「庵治石のあかり」を道路沿いに配置して、源平史跡を巡るイベントで、庵治石とデザイン、史跡を融合した産業観光視点のイベントとして開催、期間中の毎週土曜日に限定したライブ等の多彩なイベントを始め、企画展示や観覧参加者が審査するコンテストの実施など、毎年、県内外から多数の参加者を集める事業として注目されています。 主催：むれ源平石あかりロード実行委員会	【来場者数】 平成 23 年度　75,000 人 平成 24 年度　85,000 人 平成 25 年度　75,000 人 平成 26 年度　52,000 人 平成 27 年度　75,000 人 平成 28 年度　80,000 人

高松盆栽振興事業	
事業概要	実施実績
平成２８年度から高松盆栽の普及及び生産拡大の推進を図るために各種事業を実施します。 ○盆栽大会出展事業、高松盆栽ＰＲ事業 盆栽大会等に出展し、高松盆栽のＰＲを実施 ○高松盆栽生産振興事業 盆栽技術の継承を図るため、盆栽研修を支援 また、盆栽の共同育苗を支援 ○盆栽輸出振興事業 盆栽の輸出の拡大を図るため、海外盆栽バイヤーとの商談会の開催及び輸出体制の整備を支援 事業主体：香川県盆栽生産振興協議会ほか	【平成２８年度】 ○高松盆栽のＰＲグッズ等を作成 ○海外盆栽バイヤーとの商談会を実施（回数２回、バイヤーの出身国：ベルギー、ドイツ） 【平成 29 年度】 ○平成 29 年４月にさいたま市で開催された世界盆栽大会に出展し、高松盆栽のＰＲを実施

高松盆栽の郷構想推進事業	
事業概要	実施実績
平成 29 年度に策定した「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、盆栽産地（鬼無・国分寺地区）の伝統的な盆栽文化の一層の普及・定着による「高松盆栽の郷」の産地そのもののブランド化を図るため、４つの基本方針に基づき香川県と連携しながら総合的な産地振興に取り組んでいきます。 ①国内需要の拡大 新たな需要創出に向けた取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・ＰＲ活動 ②輸出の拡大 輸出量増加のための取組、輸出基盤の強化や販路拡大への取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・ＰＲ活動 ③産地基盤の強化 盆栽後継者の育成のための取組、生産・販売の基盤強化のための取組 ④高松盆栽の郷づくり 「高松盆栽の郷」基本計画（策定中）に基づくツーリズム等の取組、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設の整備 事業主体：香川県盆栽生産振興協議会ほか	平成 29 年度 「高松盆栽の郷」基本構想策定

伝統的ものづくり普及啓発事業	
事業概要	実施実績
【伝統的ものづくり学校巡回教室】 市内小・中学校へ伝統工芸の職人を派遣し、ワークショップ等を開催することで、高松の歴史を伴う伝統工芸品に関する教育の推進や関心を深めます。 【伝統的ものづくり親子体験教室】 親子で伝統工芸品の制作体験を体験することで、地域資源である文化の理解と関心を深めます。	【参加者数／回数】 平成 26 年度　４０４人　／　１４回 平成 27 年度　３６０人　／　１４回 平成 28 年度　２８０人　／　6回 【参加者数／回数】 平成 26 年度　１１１人　／　４回 平成 27 年度　２４２人　／１０回 平成 28 年度　２９４人　／１０回

食

食プロジェクト　豊富な食文化と異文化との融合

① 現状と課題

私たち、高松市民はこれまで、瀬戸内海でとれた新鮮な魚介類や温暖な気候で育った農産物、そして世界に誇れるソウルフードであるさぬきうどん等、豊かな食文化の中で育まれてきました。特に農産物は多種・多様な野菜・果物が生産されており、なかでも果物については、県オリジナル品種の栽培が盛んで品質の高さも評判です。

しかしながら、全国的にも農水産業は従事者の高齢化や後継者不足が深刻化しており、農水産物の需要拡大や生産体制の強化が求められおり、本市では、農水産物等の円滑な流通と消費者への安定した供給を担うため、卸売市場及び食肉センターの管理運営と消費拡大等の情報発信を実施しています。また、平成２７年に「高松市中央卸売市場再整備基本構想・基本計画」を策定し、施設の老朽化等の様々な課題を解決するために市場移転を目指しており、新たな市場での食の集積が期待されています。

一方、家庭生活では、生活時間の多様化や単独世帯の増加等により、食の大切さに対する意識が希薄になり、伝統的な食文化の衰退や、家族や友人と楽しく食卓を囲む機会やコミュニケーションの減少等が課題となっており、健全な体と心の豊かさを実感できる食生活を送るためにも、食育及び地産地消の推進への取組が必要となっています。

子ども達の食育としては、栽培、収穫、調理を通して食に関する知識や技術が習得できるよう、農業体験やクッキング活動の推進を図り、食の大切さや、食文化に対する理解を深めています。

また、農水産物の地産地消を推進するため、市内でマルシェ等が開催されるほか、地元食材を使用した幅広い料理を提供するレストランの増加や道の駅での産直の整備等が進められています。新しい取組として、瀬戸内国際芸術祭２０１６において、瀬戸内の食材を生かした食の提供や情報発信等を行う「食プロジェクト」に取り組み、過去３回の開催では、現代芸術作品として飲食店も開店しています。

② プロジェクトの目的

食の観点から農水産業や工芸、観光等に係る課題解決へのアプローチを行うとともに、健康、食育、異文化融合等、多元的な観点から食を捉えることで、複合的な社会課題の解決を目指します。

③ 取組方針

項目	詳細
食べることまで考えた「農のある暮らし」の推進	●自らブランド化できる新規就農者等の育成・確保や田園風景の保全を目指した優良農地の確保等の推進 （人・農地プラン推進事業） ●作付けから収穫、調理まで一貫して体験できるプログラムの作成・実施
食を中心としたコミュニケーション空間づくりの推進	●スポーツ後の懇談や、人生の節目や年間行事の郷土料理等「楽しい食卓」を経験できる取組 （郷土料理や旬の地元食材を使った料理教室の開催、食材や調理法の情報発信） ●自然・音楽・工芸等、異なる文化と食の充実など、「楽しい食事」を経験できる取組の実施（アスパラ大騒ぎ等） ●観光資源としての食の発信 （高松の食・観光魅力発信ガイドマップ制作事業等） ●ビジネスにも生きがいにもつながる農産物直売所や宅配・配食サービスの実施
地元農水産物を取り入れた、体も心も元気になる食事の在り方の研究	●農水産業への関心を深める高松ならではの食を通じた食育手法の開発・普及 （さぬきうまいもんプロジェクト、たかまつ市場フェスタ事業、市場特別開放事業等） ●地元農水産物のブランド化の推進 （高松ブランド農産物育成支援事業等） ●食の仕組みの理解だけでなく、子どもの表現力・創造力の育成に向けた幅広いプログラムの開発（市場 DE 自由研究事業等）
工芸を活用した、豊かなライフスタイルの実現	●食事にあわせた、器などの工芸品の選び方、盛りつけ方、さらにはライフスタイルまで含めた提案の取りまとめ・発信

④ 主な取組事業

人・農地プラン推進事業	
事業概要	実施実績
地域での話し合いに基づく適切な「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図ります。 今後は、本事業を有効活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図ります。	【人・農地プランの作成地区数】 平成２５年度　３０地区 平成２６年度　３１地区 平成２７年度　３２地区 平成２８年度　３２地区

さぬきうまいもんプロジェクト	
事業概要	実施実績
【さぬきダイニング】 地元食材を使用した幅広い料理を提供するとともに、観光客にも自信をもって勧められる、情報発信力の高いレストランを認定し、メニュー開発やフェア・ワークショップを通じて地元食材等の認知度向上に取り組みます。 【さぬきマルシェ in サンポート】 瀬戸内の景観が一望できるサンポート高松において、対面により、生産者がこだわりの野菜や旬の果物、加工食品を販売するほか、地元シェフが県産食材を使った飲食を提供する欧風産直市を開催し、県産食材の認知度の向上とサンポート高松の賑わいづくりを図ります。 主催：香川県 さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会 さぬきマルシェ in サンポート実行委員会	【さぬきダイニング認定店舗数】 平成２８年度 18 店舗（県下では 27 店舗） 【さぬきマルシェ in サンポート　開催回数】 平成２５年度　32 回 平成２６年度　38 回 平成２７年度　33 回 平成２８年度　41 回

高松ブランド農産物育成支援事業	
事業概要	実施実績
消費者との地産地消を基本とした共生型農業を推進するため、市内で生産された新鮮で良質な農産物や加工品を「高松産ごじまん品」として市民に提供するとともに、情報発信や農業体験教室、料理教室等の開催を通じて市内農産物の需要拡大と市民の健康で豊かな食生活の実現を図ります。 今後も、食育・地産地消の推進、農産物のブランド化を推進するため、継続して事業を行っていきます。	【高松産ごじまん品関連イベント実施回数】 平成２５年度　46 回 平成２６年度　49 回 平成２７年度　46 回 平成２８年度　47 回

市場 DE 自由研究事業	
事業概要	実施実績
小学生及びその保護者を対象に、市場の流通の仕組みや機能を、夏休みにおける自由研究の題材として提供することにより、市場の役割等の知識を深めます。 今後は、市場をより身近に感じていただけるような事業展開とともに、引き続き、市場流通の拡大につながるよう地産地消の題材も取り入れていきます。	【実施回数／参加者数】 平成２５年度　２１２人 平成２６年度　２０８人 平成２７年度　２０２人 平成２８年度　１９４人

交流

交流プロジェクト　地域のコトを通して世界的な交流へ

① 現状と課題

高松港のシーフロント（旧高松貨物駅跡地）を再開発したサンポート高松は、JR 高松駅の近隣に、JR ホテルクレメント高松、国際会議場やサンポートホール高松、香川県県民ホールといった大型の会議場も整備されています。平成２８年度には、これらの施設及び国の特別名勝栗林公園等のユニークベニューを活用して「Ｇ７香川・高松情報通信大臣会合」が開催されました。また、平成２８年に、高松空港に香港線が新たに就航し、国際定期路線は４路線となり、過去最大の空港利用者数を記録しました。インバウンド市場の拡大やアジアでのＭＩＣＥの増加を本市の交流人口拡大につなげるため、ＭＩＣＥの開催・誘致がより一層求められています。

このような中、平成２９年３月に高松市ＭＩＣＥ振興戦略を策定し、県内有数のコンベンション施設等が集まるサンポート地区を中心に、東西に広がるシーフロントという稀有の資源と、南に続く県内随一の都市機能が集積した「高松Ｔゾーン」を活用した高松らしいＭＩＣＥの誘致・創出を行っていきます。

また、本市では地域コミュニティの土壌を背景として、文化芸術・スポーツ等、多様な分野において活動する市民団体が数多く存在し、瀬戸内国際芸術祭を始め、高松国際ピアノコンクール、サンポート高松トライアスロン等、国際的にも発信力のあるイベントの開催等、本市のにぎわいづくりに参画しています。今後は、集客力が高まった環境を、より多くの人達が交流できる場として創出していくことが課題となっています。

なお、本市を代表する現代アートの祭典である瀬戸内国際芸術祭は、平成２８年に３回目を開催し、世界中から１０４万人の来場者を迎え、文化・芸術による地域振興の新しいあり方として定着してきています。この芸術祭が契機となり、会場の一つである男木島には、移住者が増加し、休校中の小・中学校が再開されるなど、文化・芸術を通じた交流が人を惹きつけ、移住・定住を招き、地域再生のモデルの一つとなっています。

② プロジェクトの目的

本市の海園・田園の魅力や、寛容性のある文化・芸術土壌を活用し、市民や観光客が豊かな余暇を過ごせるよう、地域を通して、より多くの人達が交流できる場を創出し、地域力の向上を図るとともに、市をあげて「おもてなしの心」をもってＭＩＣＥ誘致等に取り組むほか、効果的なシティプロモーションの実施により、国内外の人に高松の魅力を伝え、移住・定住の促進につなげます。

③ 取組方針

項目	詳細
「高松Ｔゾーン」を活用した高松ならではのＭＩＣＥや観光の創出 交流の場の創出	●既存施設の活用と連携 （サンポートホール高松等を含めたサンポート地区施設の利用による会議等の開催） ●ユニークベニュー等、高松らしさをいかせる場所の活用 （高松城跡等整備事業、高松城跡（玉藻公園）を活用した観光振興事業、屋島山上拠点施設整備事業、屋島活性化推進事業、屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～、温泉をいかした塩江地域の観光振興事業、栗林公園、瀬戸内の島々、仏生山等） ●会議等に必要なインフラの整備 （ＭＩＣＥ施設等の公衆無線ＬＡＮ整備等） ●主要空港～高松、会議場～宿泊施設など、移動時間や移動手段そのものもアクティビティとして魅力あるものとする取組の実施 ●既存の地域のコトを発展させた企画の提案や、新たな会議の企画・開催 （高松盆栽、お遍路・マリンスポーツ・うどん等）

観光客へのおもてなしの心と地域資源を活用した取組	●個人型ツアーの充実（瀬戸内海のクルーズ等） （グリーン・ツーリズム推進事業等） ●飲食施設・宿泊施設と連携したサービスの実施 （瀬戸内海の眺望や食を堪能できるサービス等） ●まちなかでのコンシェルジュサービスを始め、高松空港やＪＲ高松駅等主要施設等での案内板の充実や標識の多言語化等の実施 ●高松ならではの情報の発信 （訪日観光客誘致事業、誘客促進事業、観光客受入態勢整備事業）
地域を通したブランディング・プロモーション	●日頃の生活や地域・集落と強く結ばれた獅子舞などに代表される地域の祭りやイベントの開催支援 （さぬき高松まつり、高松秋のまつり・仏生山大名行列、農村歌舞伎等） ●国際的なイベント等に対する市民参加の機会提供 （次世代人材の育成、ボランティア活動等） ●地域のコトの国内外への発信 （瀬戸内国際芸術祭、高松国際ピアノコンクール、サンポート高松トライアスロン、中国・四国パラ陸上競技大会、日本パラ陸上競技選手権大会、かがわ山なみ芸術祭等）

海園・田園・まちなかにおける快適な交流	●都市の魅力を再発見する事業 （ウォーキング等、回遊したくなるまち、高松まちかど漫遊帖、高松市南部地域スポーツ施設（仮称）整備事業、ヨット競技場再整備事業等） ●公共空間のさらなる活用 （まちなかパフォーマンス事業、ＳＥＴＯＵＣＨＩ　ＳＵＭＭＥＲ　ＮＩＧＨＴ　ＦＥＳＴＩＶＡＬ等） ●空き家や廃校等の活用 （創造支援センター運営事業、職人の育成塾等） ●商店街の賑わい促進 （高松市美術館サポートショップ事業、高松駅から商店街へつながる観光ルートの開発、まちの駅開設等） ●親しみやすい水辺空間の整備 （ため池景観整備維持管理事業、ガラスの赤灯台「せとしるべ」等） ●海から見たまち、女木島・男木島・大島の魅力発信 （男木交流館、庵治石の灯台「男木島灯台」等） ●田園とまちなかをつなぐ「スマートサイクル」の推進 （コミュニティサイクルポートの整備、レンタサイクルのアート化等） ●公共交通システムの充実による回遊性の向上 （まちなかの周遊バス等）
文化等の寛容性を活用した交流事業	●誰もが参加できる活動の支援 （障がい者スポーツ推進事業、市民活動センター運営事業等） ●地域や地元大学等との連携 ●人材の発掘・誘致 （アーティスト・イン・レジデンス事業、ディレクターの配置等） ●新しく創出される文化・芸術等活動の支援

④ 主な取組事業

屋島活性化推進事業	
事業概要	実施実績
屋島活性化に向け、屋島の有する特性・価値を将来にわたり継承しつつ、市民を始め、屋島を訪れる人々に広く知ってもらうため、「屋島活性化基本構想」に基づく事業を実施し、屋島を世界に誇れる本市のシンボルとして再生します。 この事業の一つとして、山上を訪れる人々に屋島を知ってもらうため、人が集まり、学び、楽しみ、交流できる拠点となる屋島山上拠点施設の整備を実施し、平成３１年度中の完成を目指します。 平成２９年に完成した屋島レグザムフィールドについては、四国大会等の陸上競技大会が開催可能であり、棒高跳の公認競技が可能な室内競技場を全国で初めて併設しています。	【屋島ドライブウェイ入込客数】 平成２５年度　４２１，９８５人 平成２６年度　４７３，９９５人 平成２７年度　４６５，６０２人 平成２８年度　４６５，４４１人

瀬戸内国際芸術祭	
事業概要	実施実績
文化芸術の振興と、瀬戸内の活性化や地域振興を、世界に向けての情報発信に寄与するため、現代アートの作家や建築家と協働する国際的な芸術祭と位置付けて、香川県・関係市町及び福武財団などとともに開催する瀬戸内国際芸術祭を推進していきます。 瀬戸内国際芸術祭 2016 においては、これまでにも増して充実したアート作品やイベントが加わり、外国人の来場者が前回よりも１０ポイント以上増加しました。今後も市独自の関連事業を積極的に実施し、内陸部への観光客の誘客も図り、本市の活性化につなげていきます。	【トータル来場者／外国人の割合／経済波及効果】 ２０１０年 938,246 人　1.1%　－億円 ２０１３年 1,070,368 人　2.6%　132 億円 ２０１６年 1,040,050 人　13.4%　139 億円

高松国際ピアノコンクール	
事業概要	実施実績
音楽芸術の振興と国際的な文化交流を図ることにより、地域に根ざした文化芸術の創造と振興に寄与することを目的として、民間主導により行われる国際的なピアノコンクールの開催を支援します。 第 3 回高松国際ピアノコンクール（平成 25 年度開催）の翌年度からは、同コンクール組織委員会の実施事業以外に、本市と組織委員会が連携した取組として、学校訪問リサイタル、コンクール審査員による演奏会や公開レッスンを実施し、今後は、平成３０年の第４回開催を契機に本市の音楽文化の交流の場を広げるとともに、その発展を目指していきます。	【大会参加人数／観客数／ボランティアスタッフ数】 平成１８年　306 人／11,250 人 平成２２年　243 人 ／ 7,550 人 平成２６年　239 人　／7,180 人

サンポート高松トライアスロン	
事業概要	実施実績
サンポートエリアの海と本市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手たちが参加できる国内屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」を共催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松の PR 等、活力あるまちづくりの促進を図ります。 今後、より多くの人々が観戦しやすい環境づくりにも留意し、多様な人々との交流、大きな感動、充実感が生まれる時間・空間の創出を進めます。	【参加選手数／ボランティアスタッフ数／観客数】 平成２５年度　４５８人／７４９人／４，５００ 平成２６年度　４６７人／６７６人／１２，０００ 平成２７年度　４７９人３９４人／７０３人／１３，５００ 平成２８年度　５８４人４８４人／６４０人／１４，８００人

中国・四国パラ陸上競技大会・日本パラ陸上競技選手権大会	
事業概要	実施実績
【中国・四国パラ陸上競技大会】 　障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者のスポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組むため、平成２９年４月の屋島レクザムフィールドのオープンに伴い、７月に同会場にて四国で初開催し、今後、３１年度までの３ヶ年計画で開催します。 　また、本大会では、競技のみならず、障がい者を中心とする音楽クループやプロのパフォーマーなどのアーティストによる参加型イベントの開催したほか、うどんブースの出店など、障がい者によるスポーツイベントとして実施していきます。 【日本パラ陸上競技選手権大会】 　本市スポーツ施設における環境整備や障がい者のスポーツ推進を図るとともに障がい者のスポーツ人口の増大と競技力の向上を図るため、平成３０年に本大会を四国で初めて開催します。また、新聞・ＴＶ等の媒体による事前周知や大会開催に併せ、メダリストと小学生との交流事業を計画するなど、幅広く市民への周知に努めていきます。	平成２９年度実績 　大会参加人数　１１２人

まちなかパフォーマンス事業	
事業概要	実施実績
市民の文化芸術への関心を高めるとともに、まちかどに芸術のあふれる「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、サンポート高松や商店街等で、アートに関連した各種イベントを実施します。 今後は、音楽やパフォーマンス等を通して、市民や観光客が、中心市街地において文化芸術を気軽に楽しめる空間づくりを推進します。	【各事業での観覧者数】 TAKAMATSU　MUSIC BLUE　FES (平成 25 年、平成 26 年街角に音楽をフェスティバル)　（単位：人） 平成 25 年　平成 26 年　平成 27 年　平成 28 年 6,850　7,610　20,200　20,870 サンポートオータムジャム (平成 25 年、平成 26 年ワールドダンスフェスティバル)　（単位：人） 平成 25 年　平成 26 年　平成 27 年　平成 28 年 3,100　650　3,800　1,500 高松フラストリート（単位：人） 平成 25 年　平成 26 年　平成 27 年　平成 28 年 6,800　7,800　8,600　9,300 街クラシック in 高松（単位：人） 平成 25 年　平成 26 年　平成 27 年　平成 28 年 6,470　1,630　3,300　1,670 たかまつ大道芸フェスタ（単位：人） 平成 25 年　平成 26 年　平成 27 年　平成 28 年 27,600　38,000　46,600　54,500

創造的プロジェクト　主な事業一覧

こども

	事業名	ページ
1	芸術士派遣事業	P.22、P.23
2	０才からのコンサート	P.22、P.23
3	ものづくりふれあい教室事業	P.22、P.23
4	学校巡回芸術教室・能楽教室事業	P.22、P.24
5	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	P.22
6	地域密着型トップスポーツチームの活用	P.22、P.24
7	こどもアートスペース（高松市美術館内）	P.22、P.24
8	高松夏休み親子探検隊チラシ制作事業	P.22
9	こども未来館わくわく体験事業	P.22、P.25
10	子ども・子育て支援事業	P.22、P.25
11	こども未来館学習体験事業	P.22、P.25
12	夢みらい図書館	P.22、P.25

工芸

	事業名	ページ
1	ＡＪＩ　ＰＲＯＪＥＣＴ	P.27、P.28
2	むれ源平石あかりロード	P.27、P.28
3	盆人プロジェクト	P.27
4	漆芸研究所修了作品貸出事業	P.27
5	高松盆栽振興事業	P.27、P.29
6	高松盆栽の郷推進事業	P.27、P.29
7	ＺＯＫＯＫＵ　ＢＲＡＮＤ推進事業	P.27
8	伝統的ものづくり学校巡回教室	P.27、P.30
9	伝統的ものづくり親子体験教室	P.27、P.30

食

	事業名	ページ
1	人・農地プラン推進事業	P.32、P.33
2	アスパラ大騒ぎ	P.32
3	高松の食・観光魅力発信ガイドマップ制作事業	P.32
4	さぬきうまいもんプロジェクト	P.32、P.33
5	たかまつ市場フェスタ事業	P.32
6	市場特別開放事業	P.32
7	高松ブランド農産物育成支援事業	P.32、P.34
8	市場 DE 自由研究事業	P.32、P.34

交流

	事業名	ページ
1	高松城跡等整備事業	P.36
2	高松城跡（玉藻公園）を活用した観光振興事業	P.36
3	屋島山上拠点施設整備事業	P.36
4	屋島活性化推進事業	P.36、P.39
5	屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～	P.36
6	温泉をいかした塩江地域の観光振興事業	P.36
7	グリーン・ツーリズム推進事業	P.37
8	訪日観光客誘致事業	P.37
9	誘客促進事業	P.37
10	観光客受入態勢整備事業	P.37
11	さぬき高松まつり	P.37
12	高松秋のまつり・仏生山大名行列	P.37
13	瀬戸内国際芸術祭	P.37、P.39
14	高松国際ピアノコンクール	P.37、P.40
15	サンポート高松トライアスロン	P.37、P.40
16	中国・四国パラ陸上競技大会	P.37、P.41
17	日本パラ陸上競技選手権大会	P.37、P.42

18	かがわ山なみ芸術祭	P.37
19	高松まちかど漫遊帖	P.38
20	高松市南部地域スポーツ施設（仮称）整備事業	P.38
21	ヨット競技場再整備事業	P.38
22	まちなかパフォーマンス事業	P.38、P.42
23	ＳＥＴＯＵＣＨＩ　ＳＵＭＭＥＲ　ＮＩＧＨＴ　ＦＥＳＴＩＶＡＬ	P.38
24	創造支援センター運営事業	P.38
25	高松市美術館サポートショップ事業	P.38
26	ため池景観整備維持管理事業	P.38
27	障がい者スポーツ推進事業	P.38
28	市民活動センター運営事業	P.38
29	アーティスト・イン・レジデンス事業	P.38

2　ビジョンの推進

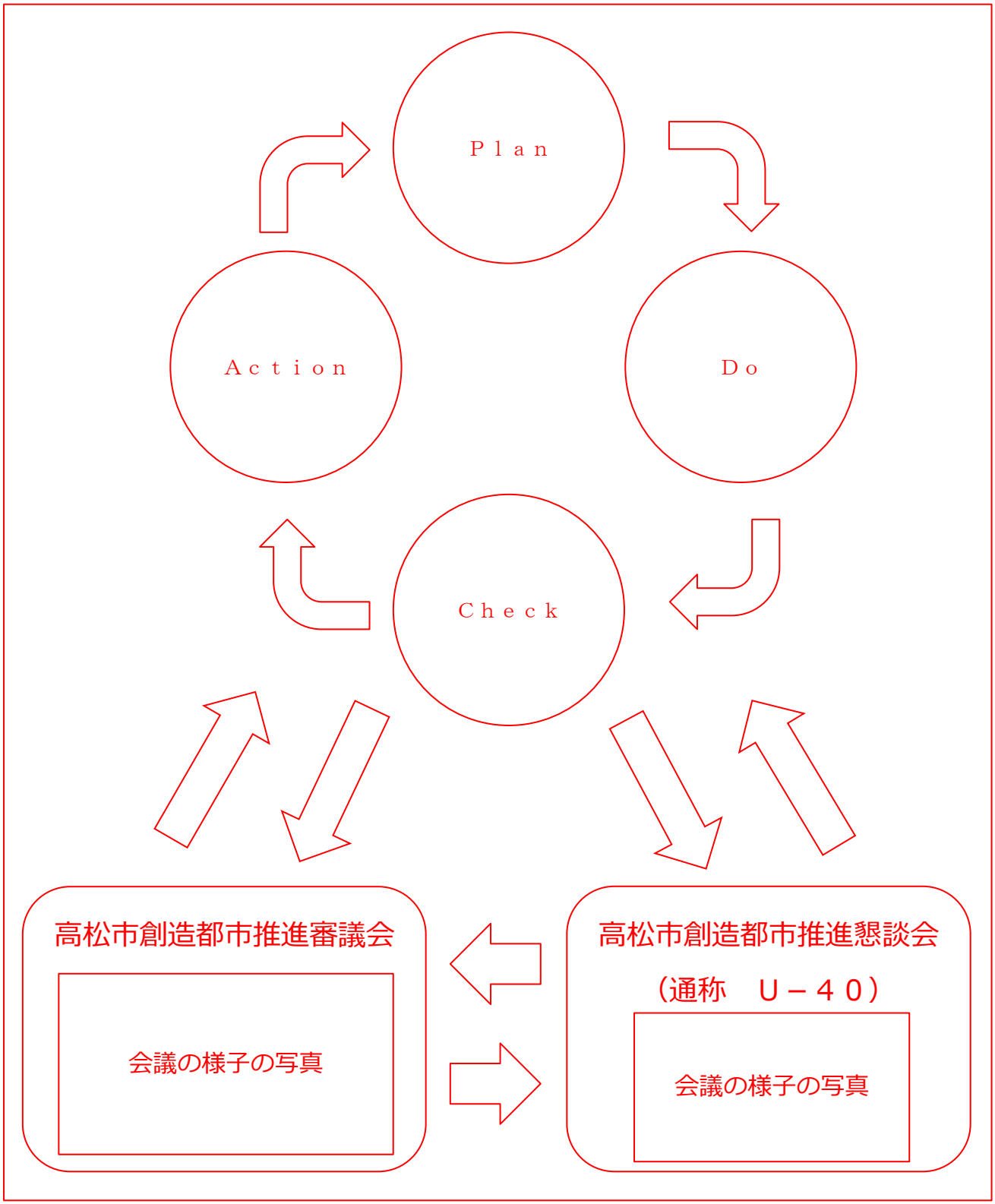
1　PDCA サイクルによる進行管理

本ビジョンを円滑に推進するため、PDCA（計画／Plan・実行／Do・評価／Check・改善／Action）サイクルによる進行管理を行います。

2　行政及び民間双方における推進体制の拡充

創造都市推進のためには、行政だけでなく、民間においても強力な推進エンジンが求められます。高松市創造都市推進審議会及び懇談会の委員（資料編参照）等を中心にして、創造的アプローチによりプロジェクトに取り組む多数の市民団体の創出や育成に努めます。

また、民間と行政の若手が交流し、意見を出し合えるような交流の場を作り、いかしていくとともに、民間から出たアイデアを活用する仕組みづくりに努めます。


Ｐｌａｎ
Ｄｏ
Ｃｈｅｃｋ
Ａｃｔｉｏｎ
高松市創造都市推進審議会
会議の様子の写真
高松市創造都市推進懇談会
（通称　Ｕ－４０）
会議の様子の写真

資料編

1　審議会及び懇談会委員名簿

①高松市創造都市推進審議会（第３期）　（任期：平成 28 年９月 28 日～平成 30 年９月 27 日）

区分	氏名	役職等	備考
学識経験者	植松　由佳	国立国際美術館　主任研究員	
	佐々木　雅幸	同志社大学経済学部　特別客員教授	会長
	佃　昌道	高松大学・高松短期大学　学長	
	西成　典久	香川大学経済学部　准教授	
産業振興	大久保　一彦	庵治大丁場石の会　代表	
	木村　葉月	香川県中小企業家同友会　会員	
	中　博史	高松商工会議所　副会頭	副会長
	三井　文博	NPO 法人アーキペラゴ　代表理事	
農業振興	小池　よう子	食農ライター・食農コーディネーター	
	中西　陽一	TAKUMIKUMO 代表	
文化芸術	橋本　一仁	四国学院大学教授・理事、リエゾンセンター長	
	山本　政子	「せとうち暮らし」編集長	
観光振興	香西　志帆	株式会社百十四銀行	
	小林　有美	ゲストハウス Kinco.hostel+café 代表	
国際交流	平野　キャサリン	翻訳家	
スポーツ振興	山家　春香	香川県体育協会クラブアドバイザー	
公募	井本　康裕		
	山﨑　裕之		
	渡邉　勇二郎		

（敬称略　各区分 50 音順）

②高松市創造都市推進懇談会（第３期）　任期：平成 28 年 11 月 30 日～平成 30 年 11 月 29 日

区分	氏名	役職等	備考
情報発信	児島　知樹	一般社団法人まちテレ　事務長	
	坂口　祐	一般財団法人さなごうち　理事 デザイナー／物語を届けるしごと	副会長
	瑞田　信仁	一般社団法人四国若者会議　代表理事	
	宮井　佑介	株式会社ゴーフィールド マネージャー	
子育て	徳倉　康之	株式会社ファミーリエ　代表取締役社長 NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事	会長
産業	谷　真琴	一般社団法人讃岐ライフスタイル研究所 まちのシューレ９６３店長	
農業	河田　薫	アスパラガス・ブロッコリー・菜花 生産者	
文化芸術	笹川　尚子	NPO 法人瀬戸内こえびネットワーク	
	西谷　美紀	学芸員	
観光	桑村　美奈子	地域イベントプロデューサー	
	髙島　朋江	四国旅客鉄道株式会社　総合企画本部地域連携室	
	渡邉　顕子		
国際	眞鍋　安徳	チャイナエアライン 高松営業所 所長	
スポーツ	田中　司	三井住友海上火災保険株式会社 パラアスリート（陸上競技：やり投げ）	
公募	大美　光代	base colors 代表	副会長
	田中　祐	株式会社中田養蜂	
	吉岡　奈緒美	PR/フリーランス	
	若宮　武	ゲストハウス若葉屋	

（敬称略　各区分 50 音順）

2　会議の開催状況（平成２６年度以降）

①　審議会

日程	審議会	内容
平成 26 年 11 月 30 日	平成 26 年度 第 1 回審議会	○創造都市推進局内のこれまでの取組紹介 ○審議会の今後の進め方について
平成 28 年 1 月 16 日	平成 27 年度 第 1 回審議会	○創造都市高松の今後の展開について
平成 28 年 8 月 6 日	平成 28 年度 第 1 回審議会	○ビジョン各論に対する事業評価について
平成 29 年 2 月 19 日	平成 28 年度 第 2 回審議会	○これまでの取組と今後の予定について ○次期「高松市創造都市推進ビジョン」の検討について
平成 29 年 7 月 23 日	平成 29 年度 第 1 回審議会	○次期ビジョン骨子案について ○成果指標案の検討について
平成 29 年９月２３日	平成 29 年度 第 2 回審議会	○第２次創造都市推進ビジョン（案）について
平成 29 年　月　日	平成 29 年度 第 3 回審議会	

② 懇談会

日程	懇談会	内容
平成 26 年 1 月 9 日	第 7 回懇談会（1 期）	○平成 26 年度に実施予定の社会実験について ○「高松市観光サポーター（仮称）」の設置について
平成 26 年 6 月 23 日	第 8 回懇談会（1 期）	○わたしの描く創造都市高松について
平成 27 年 1 月 14 日	第 1 回懇談会（2 期）	○グループワーク
平成 27 年 2 月 23 日	第 2 回懇談会（2 期）	○「前回の振り返り」と「今後の進め方」について ○「食育・学校給食」について ○「都市の顔づくり～情報の編集・発信～」
平成 27 年 3 月 16 日	第 3 回懇談会（2 期）	○ワークショップ 「どうすれば瀬戸内国際芸術祭に来たお客さんに高松市美術館へ来てもらえるか」
平成 27 年 5 月 11 日	第 4 回懇談会（2 期）	○ワークショップ 「高松市に若者を惹きつけるセールスポイントを考える」
平成 27 年 6 月 8 日	第 5 回懇談会（2 期）	○テーマ 1「空き家・空き店舗・空き地などの活用について」 ○テーマ 2「地元愛を育てる！たかまつっこの育て方」
平成 27 年 7 月 13 日	第 6 回懇談会（2 期）	○4 つのテーマごとにグループワーク
平成 27 年 9 月 14 日	第 7 回懇談会（2 期）	○4 つのテーマごとにプレ発表・経過報告
平成 27 年 11 月 11 日	公開Ｕ４０	○『ＥＸＴＲＡ（すきま）』 ○『カーペンターズ アンダー アーケード』 ○『創造的少子化対策』 ○『市役所とのヒトづくり～10,000 人で高松を変える～』
平成 28 年 2 月 25 日	第 8 回懇談会（2 期）	○今後の進め方（１・２期の振り返り／３期に向けて）

平成 28 年 6 月 30 日	第 9 回懇談会 （2 期）	○今後の進め方（１・２期の振り返り／３期に向けて）について ○ビジョン各論に対する事業評価について
平成 28 年 7 月 28 日	第 10 回懇談会 （2 期）	○前回のワークショップの振り返り
平成 29 年 1 月 26 日	第 1 回懇談会 （3 期）	○トークセッション「創造都市について」
平成 29 年 2 月 21 日	第 2 回懇談会 （3 期）	○アイデアシートの発表 ○今後の進め方について
平成 29 年 3 月 2 日	第 3 回懇談会 （3 期）	○アイデアシートの仕分け ○事業提案の絞り込み
平成 29 年 5 月 11 日	第 4 回懇談会 （3 期）	○高松市創造都市推進ビジョン（各論）の６つのプロジェクトについて ○高松市創造都市推進懇談会の今後の事業展開について
平成 29 年 9 月 7 日	第 5 回懇談会 （3 期）	○「第４章　取り組むべき事業（プロジェクト）」（案）について ○５つの事業について
平成 29 年　月　日	第 6 回懇談会 （3 期）	

3　パブリックコメントの概要

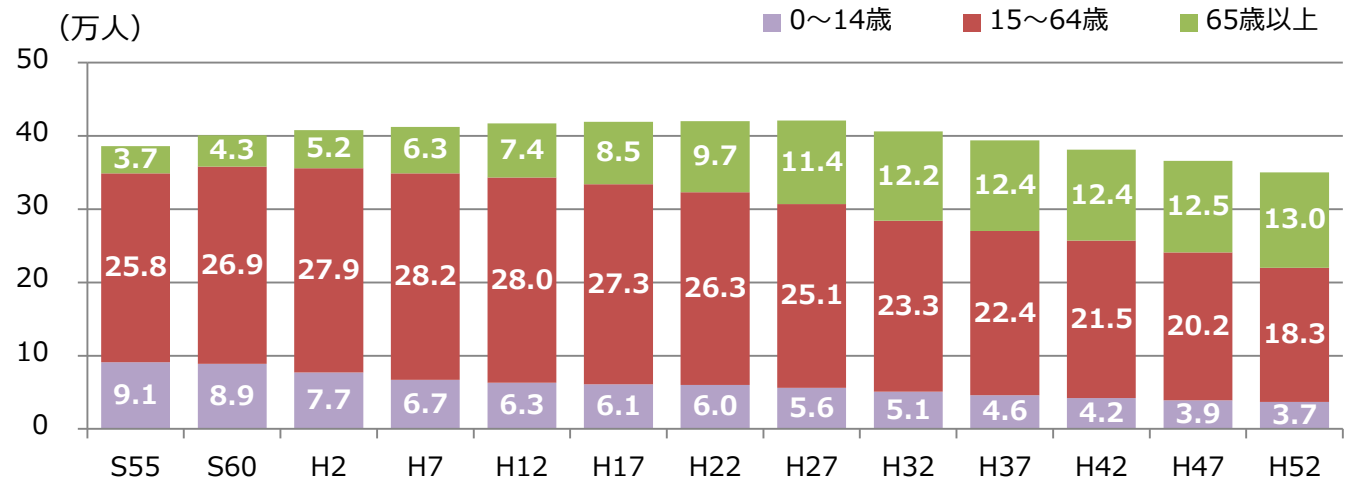
4 付随資料

①本市の特徴

●人口と世帯の推移

平成 27 年の人口は約 42 万人、世帯数は約 18 万世帯でありますが、全国的な人口減少、少子・超高齢化社会を背景に、本市においても人口減少が進み、高齢者人口が増加していくと推計されています。

年齢階層別人口の推移（将来推計含む）



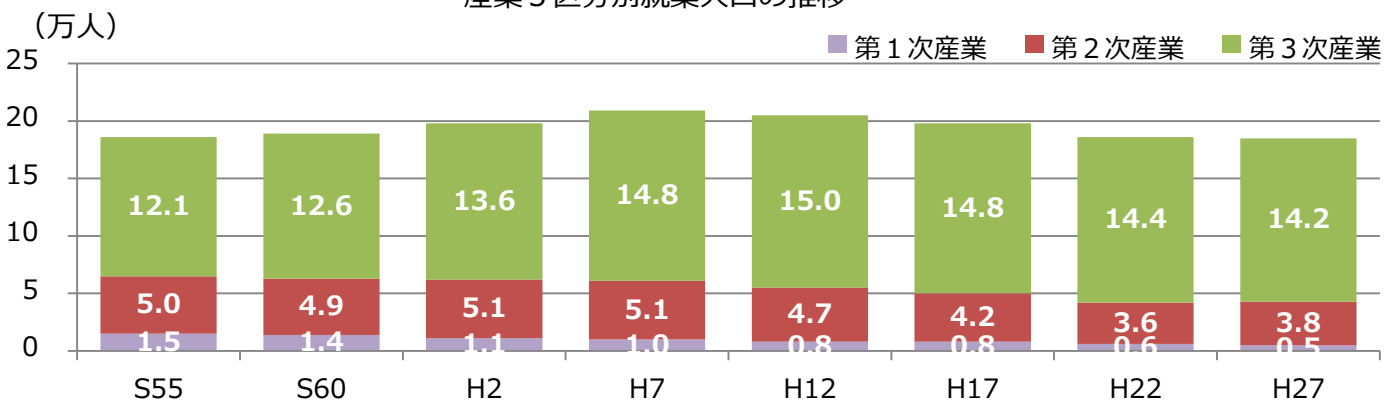
●就業者数の推移と事業所数の推移

平成 27 年の就業者数は約 19 万人であり、7 年の約 21 万人をピークに、減少傾向にあります。

産業 3 区分別では、第 3 次産業の構成比が増加傾向にあり、平成 27 年は約 3/4 を占めます。産業大分類別では、卸売業・小売業が約 3.5 万人で最も多くなっています。

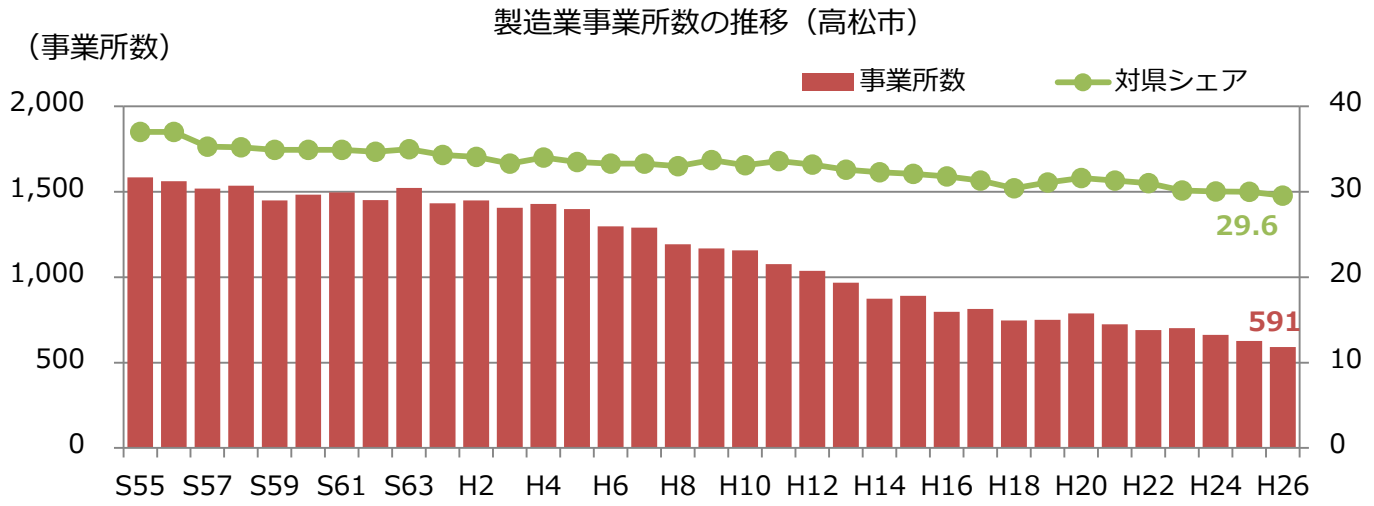
平成 26 年の新設事業所は約 4,200 事業所、廃業事業所は約 4,000 事業所となっています。

産業 3 区分別就業人口の推移

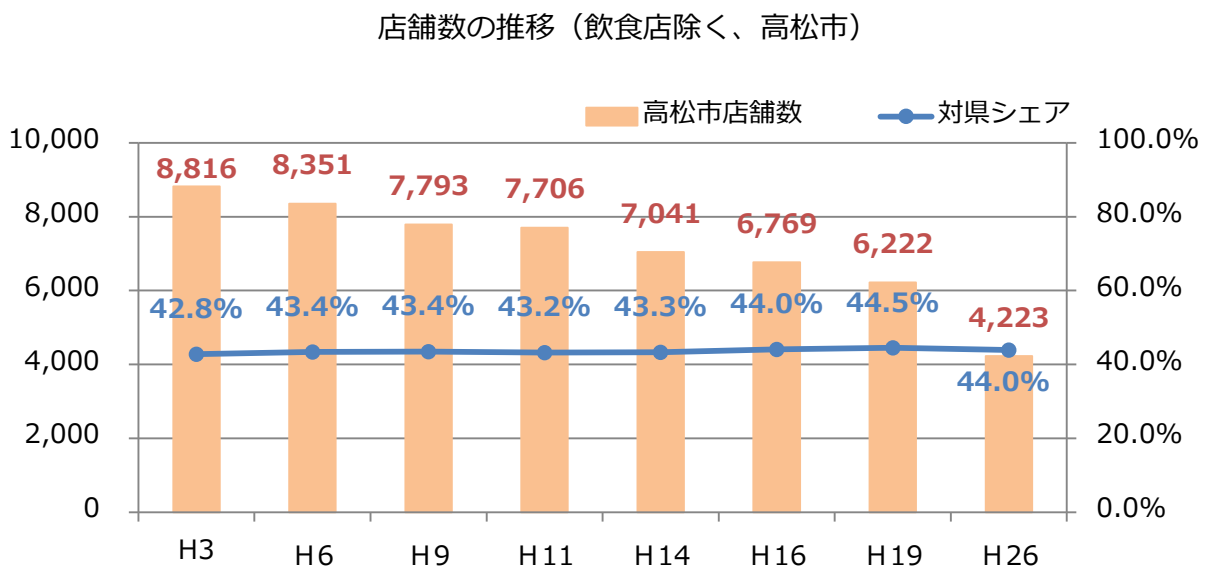


●産業別の実態

平成 26 年の製造業事業所数は 591 事業所であり、減少傾向にあります。産業中分類別では、食料品が 93 事業所で最も多く、次いで金属製品が 86 事業所、窯業・土石が 71 事業所です。



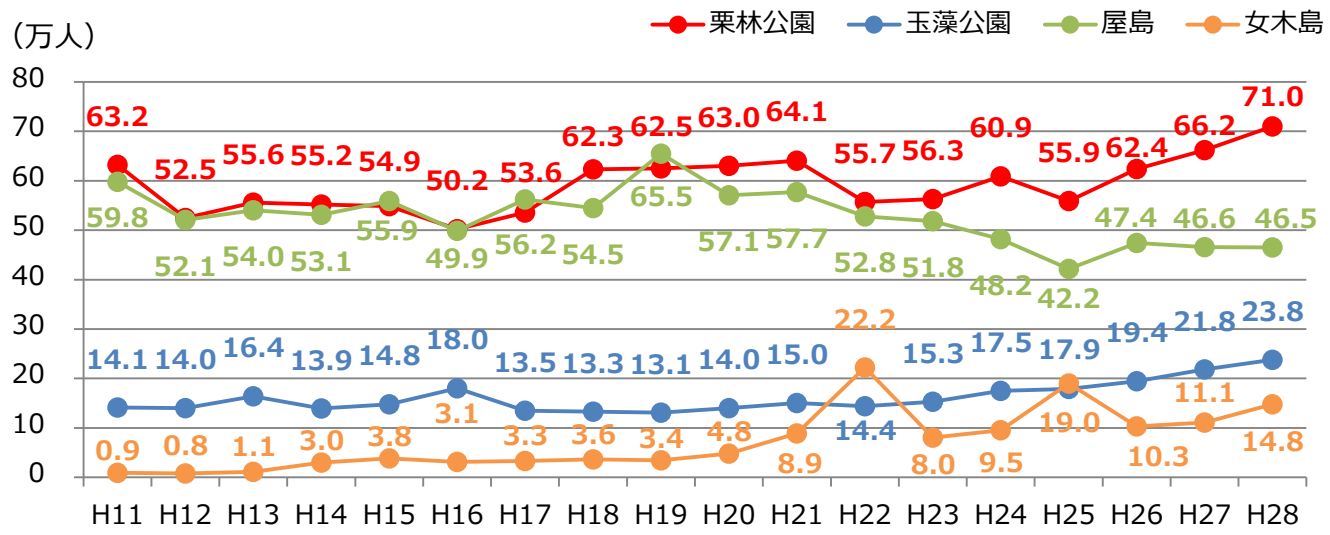
平成 26 年の店舗数は約 4,200 店、従業者数は約 3.5 万人で減少傾向にあります。年間販売額は約 2 兆 300 億円です。



●観光客数の推移

平成 28 年の入込観光客数は、栗林公園が約 71 万人、屋島が約 47 万人です。女木島は約 15 万人であり、平成 22 年及び 25 年開催の瀬戸内国際芸術祭の効果もあり、漸増傾向となっています。

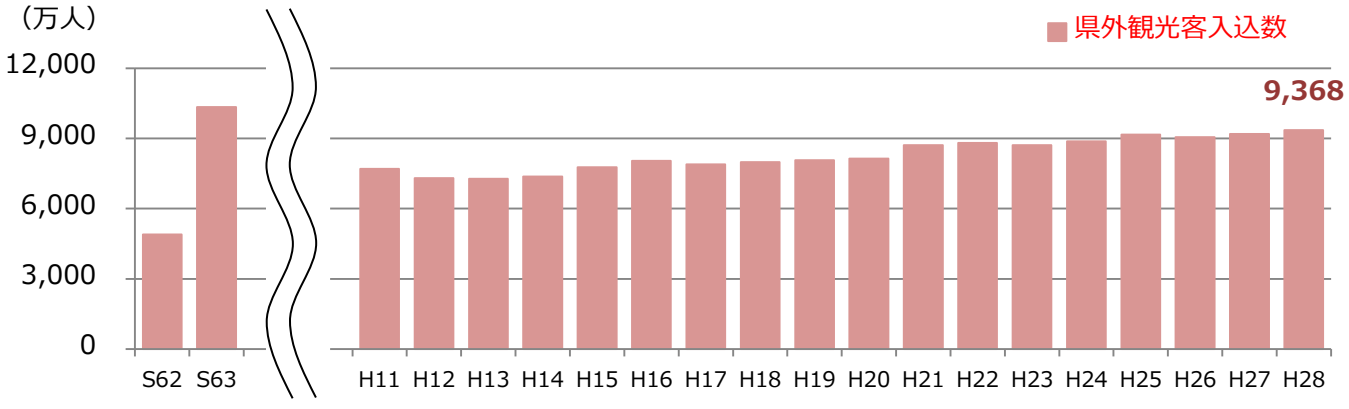
主要観光地の入込観光客数



平成 28 年の県香川県外観光客数は約 940 万人となり、2 年連続で増加し、4 年連続で 900 万人を越えました。これは、過去最大である瀬戸大橋が開通（昭和 63 年）した 1,035 万人に次ぐ 2 番目の入込み数となっています。

増加の要因としては、瀬戸内国際芸術祭 2016 の開催年であったことや、外国人旅行客の増加などにより、前年を上回る結果になったと考えられます。

県外観光客入込数



②ユネスコ創造都市ネットワーク（ＵＣＣＮ）の７分野と参加都市一覧

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は、文化の多様性の維持に向けた全世界的な包括提携の枠組みとして、2004 年に「創造都市ネットワーク」を創設しました。このネットワークは、創造産業の振興に関する知識と経験、技能・技術を共有することで、国際的にこれまでにはない創造的な経済を育てることを目的としており、平成 29 年 10 月現在　か国　都市が認定されています。このうち、日本からは浜松市（音楽分野）、金沢市、篠山市（クラフト＆フォークアート分野）、名古屋市、神戸市（デザイン分野）、札幌市（メディアアート分野）、鶴岡市（食文化）の 7 都市が認定されています。

分野	参加都市（国名）
文学	エディンバラ（イギリス）、ノリッチ（イギリス）、ノッティンガム（イギリス）、メルボルン（オーストラリア）、アイオワシティ（アメリカ）、ダブリン（アイルランド）、レイキャヴィーク（アイスランド）、クラクフ（ポーランド）、ダニーデン（ニュージーランド）、グラナダ（スペイン）、バルセロナ（スペイン）、ハイデルベルク（ドイツ）、プラハ（チェコ）、バグダード（イラク）、リュブリャナ（スロベニア）、リビウ（ウクライナ）、モンテビデオ（ウルグアイ）、オビドス（ポルトガル）、タルトゥ（エストニア）、ウリヤノフスク（ロシア）
映画	ブラッドフォード（イギリス）、シドニー（オーストラリア）、釜山（韓国）、ゴールウェイ（アイルランド）、ソフィア（ブルガリア）、ビトラ（マケドニア）、ローマ（イタリア）、サントス（ブラジル）
音楽	ボローニャ（イタリア）、セビリア（スペイン）、グラスゴー（イギリス）、リバプール（イギリス）、ヘント（ベルギー）、ボゴタ（コロンビア）、ブラザヴィル（コンゴ共和国）、ハノーバー（ドイツ）、マンハイム（ドイツ）、浜松市（日本）、アデレード（オーストラリア）、イダーニャ・ア・ノバ（ポルトガル）、カトビーツェ（ポーランド）、キングストン（ジャマイカ）、キンシャサ（コンゴ民主共和国）、メデジン（コロンビア）、サルヴァドール（ブラジル）、統営（韓国）、バラナシ（インド）
クラフト＆フォークアート	アスワン（エジプト）、サンタフェ（アメリカ）、パデューカ（アメリカ）、金沢市（日本）、篠山市（日本）、利川（韓国）、杭州（中国）、景徳鎮（中国）、蘇州（中国）、ファブリアーノ（イタリア）、ジャクメル（ハイチ）、ナッソー（バハマ）、プカロンガン（インドネシア）、アル・アサ（サウジアラビア）、

	バーミヤーン（アフガニスタン）、ドゥラン（エクアドル）、エスファハーン（イラン）、ジャイプル（インド）、ルブンバシ（コンゴ民主共和国）、サン・クリストバル・デ・ラス・カサス（メキシコ）
デザイン	ベルリン（ドイツ）、ブエノスアイレス（アルゼンチン）、モントリオール（カナダ）、神戸市（日本）、名古屋市（日本）、深圳（中国）、上海（中国）、北京（中国）、ソウル（韓国）、サンテティエンヌ（フランス）、グラーツ（オーストリア）、ビルバオ（スペイン）、クリチバ（ブラジル）、ダンディー（英国）、ヘルシンキ（フィンランド）、トリノ（イタリア）、バンドン（インドネシア）、ブダペスト（ハンガリー）、デトロイト（アメリカ）、カウナス（リトアニア）、プエブラ（メキシコ）、シンガポール（シンガポール）
メディアアート	リヨン（フランス）、アンギャン・レ・バン（フランス）、札幌市（日本）、ダカール（セネガル）、光州（韓国）、テルアビブ-ヤッファ（イスラエル）、リンツ（オーストリア）、ヨーク（イギリス）、オースティン（アメリカ）
食文化	ポパヤン（コロンビア）、成都（中国）、順徳（中国）、エステルスンド（スウェーデン）、全州（韓国）、ザーレ（レバノン）、フロリアノポリス（ブラジル）、ベレン（ブラジル）、鶴岡市（日本）、ベルゲン（ノルウェー）、ブルゴス（スペイン）、デニア（スペイン）、エンセナーダ（メキシコ）、ガジアンテプ（トルコ）、パルマ（イタリア）、プーケット（タイ）、ラシュト（イラン）、ツーソン（アメリカ）

③創造都市ネットワーク日本（ＣＣＮＪ）

創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして、平成25年1月13日に「創造都市ネットワーク日本」が設立され、本市を含めた96自治体及び36団体が参加しています。

2018 – 2023